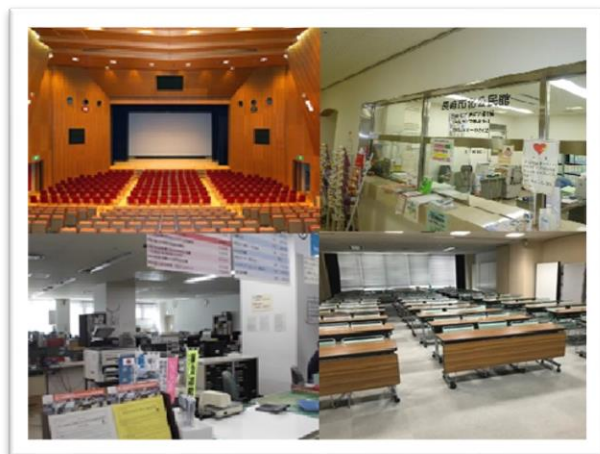




長崎市公共施設マネジメント 西浦上・三川地区計画



長崎市 令和3年5月
(令和6年6月改訂)

【目次】

1	西浦上・三川地区の特性	1
2	西浦上・三川地区の将来推計人口	1
3	西浦上・三川地区の公共施設配置図	3
4	西浦上・三川地区の公共施設の情報	5
5	将来の方向性	9
(1)	市民利用型施設	10
①	コミュニティ活動施設（北公民館、三川地区ふれあいセンター、老人福祉センターすみれ荘）	10
②	ホール型施設（チトセピアホール）	19
③	学校（西浦上小学校、川平小学校、三原小学校、女の都小学校、西山台小学校、西浦上中学校、三川中学校、長崎商業高等学校）	22
④	放課後児童クラブ（ひばりクラブ、学童保育ひばり：ひばりキッズ／ひばりクラブ、みはらクラブ、ピノキオクラブ、たんぼぼクラブ）	25
⑤	子育て関連施設（西浦上地区子育て支援センター「ぴよぴよ」）	30
⑥	保育所・幼稚園（大手保育所）	33
(2)	都市基盤施設	35
①	市営住宅（三原住宅、川平住宅、女の都住宅、西山台住宅、花丘住宅、文教住宅、千歳住宅）	35
②	市営駐車場（住吉町二輪車等駐車場）	38
(3)	公用施設（庁舎等）	40
①	庁舎等（西浦上地域センター）	40
②	その他事務所（北部現場事務所）	43
(4)	公園施設	45
①	公園施設（近隣公園、街区公園）	45
6	地区別計画のロードマップ（再掲）	47
参考	市民対話の実施	49

1 西浦上・三川地区の特性

西浦上・三川地区は、長崎市の北部に位置しており、浦上川、三川川沿いなどの平坦地のほかは、丘陵地や山地で形成されています。北部には浦上ダムがあり、長与町と接しています。高度成長期には、山林を造成して、女の都団地や西山台団地など、大型の宅地開発も進みました。

古くから長与方面に至る交通の要所で、地域内には国道 34 号長崎バイパス、川平有料道路、主要地方道東長崎長与線などの主要な幹線道路が通っており、川平料金所周辺は周辺市町を結ぶ広域的な道路交通の結節点となっています。

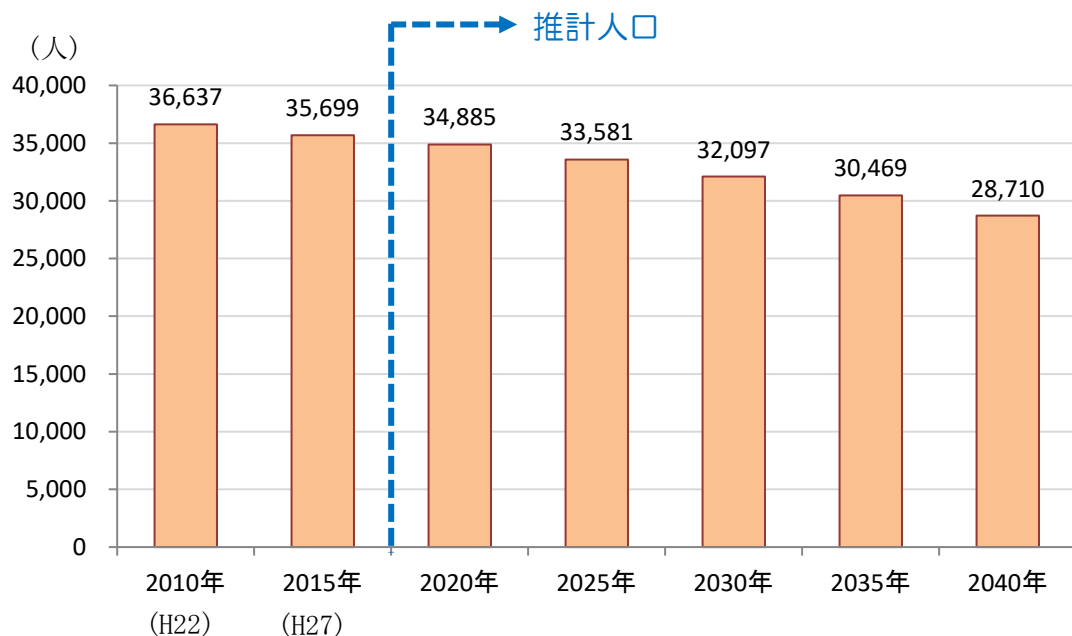
地区の西部は、長崎市の南北交通の大動脈である国道 206 号線のほか、長崎電気軌道と J R 長崎本線が並走しており、利便性から多くの商業施設が集積しています。1991（平成 3）年には、長崎市で最初の市街地再開発事業として、商業施設、公営住宅、駐車場のほか、市の行政窓口や公民館、ホールからなる複合施設も整備され、長崎市北部の商業や文化の中心的地域となっています。

昭和 20（1945）年の原子爆弾被災時、地区内の平坦地は、多くが爆心地から 2 km 程度の範囲に含まれており、大きな被害を受けました。また、昭和 57（1982）年の長崎大水害では、住宅に近接して急峻な地形がみられた地区で、山崩れ、土石流などの大きな被害を受けました。

現在では、こうした様々な試練を乗り越え、長崎市北部の中心的地域として発展を続けています。

2 西浦上・三川地区の将来推計人口

平成 27 年（2015 年）に実施された国勢調査では、西浦上・三川地区の人口は約 36,000 人でしたが、国の研究機関の将来推計を基にした地区別の推計では、2040 年には約 29,000 人に減少すると予測されています。



※ 2015 年までは国勢調査による実績値

※ 2020 年以降は、2010 年の国勢調査を基礎とした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を基に算出

また、今後の西浦上・三川地区の年齢層別人口構成は、2040 年にかけて次のようになると予測されています。

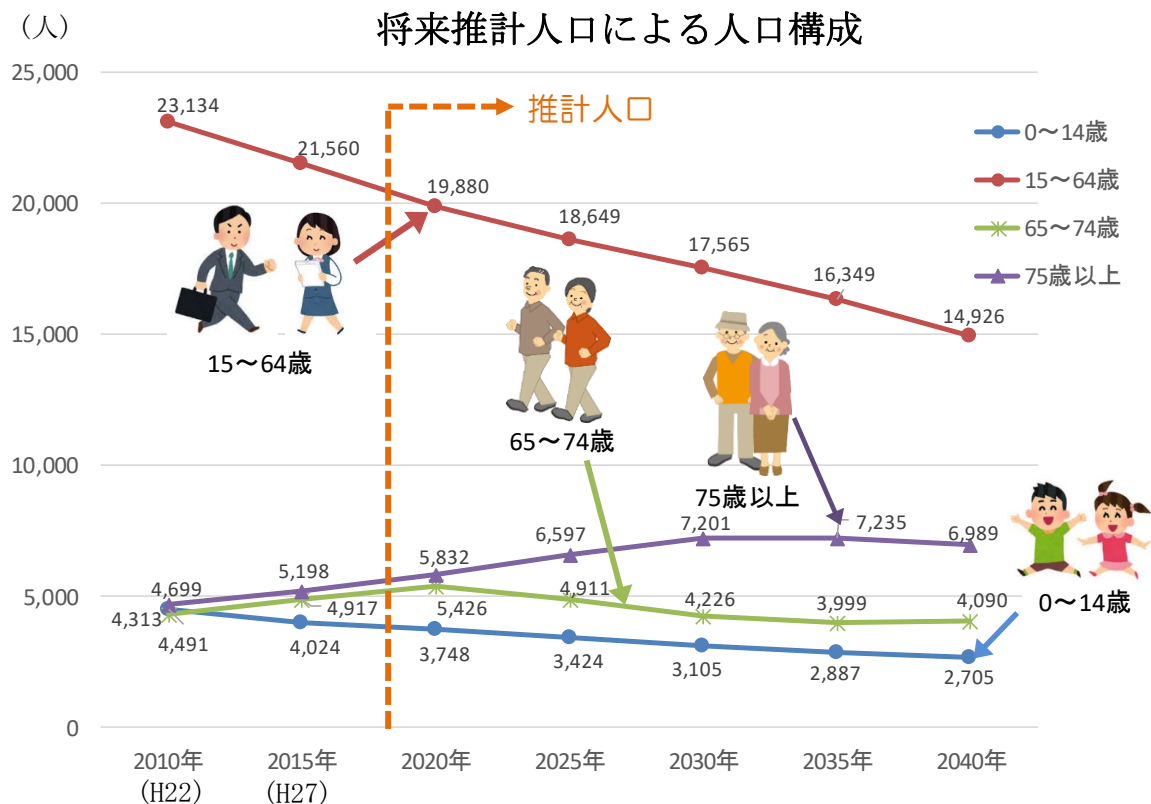
0 歳から 14 歳までの年少人口（青色）は、今後も減少傾向が続くと予測されています。

15 歳から 64 歳までの生産年齢人口（赤色）も、同様に減少傾向が続くと予測されています。

老年人口のうち 65 歳から 74 歳までの層（緑色）は、2020 年までは増加傾向を示しますが、その後は減少に転じると予測されています。

老年人口のうち 75 歳以上の層（紫色）は、2030 年から 2035 年にかけて増加のピークを迎え、それ以降は減少へと転じるものの、2015 年と比べた場合大きく増加すると予測されています。

2040 年には、地区の総人口のうち 15 歳から 64 歳の生産年齢人口が占める割合が約 5 割、65 歳以上（緑色と紫色の合計）が占める割合が約 4 割になると予測されています。



※ 2015 年までは国勢調査による実績値

※ 2020 年以降は、2010 年の国勢調査を基礎とした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を基に算出



4 西浦上・三川地区の公共施設の情報

(1) 市民利用型施設

平成 31 年 3 月 31 日現在

サービス 圏域	種類	施設の名前	施設の機能	床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況			施設にかかる費用 (※3)		
													日数	貸室の 稼働率	利用者数	H27	H28	H29
市域全体	コミュニ ティ	北公民館	交流 学習 本の貸出 (貸)	1,667㎡	1991.6	27	○	○	-	○	○	○	293	56.7%	155,708	○	○	○
	学校	長崎商業高等学校	教育	15,435㎡	1985.9	33	○	○	-	×	○	×	243	-	716 (※4)	-	-	-
	ホール	チトセピアホール	交流 学習 文化 (貸)	1,377㎡	1991.6	27	-	○	-	×	×	○	315	70.8%	45,713	×	○	○
地区	コミュニ ティ	三川地区ふれあいセンター	交流 学習 本の貸出 (貸)	693㎡	1994.2	25	○	○	-	○	○	○	308	35.6%	15,548	○	○	○
		老人福祉センターすみれ荘	交流 入浴 高齢者 (貸)	915㎡	1981.6	37	-	○	-	×	○	×	292	74.5%	48,816	○	○	○
	学校	西浦上小学校	教育	7,483㎡	1954.3	65	○	○	-	×	×	×	243	-	761	×	×	×
		川平小学校	教育	3,198㎡	1986.3	33	○	○	-	×	×	×	243	-	31	×	×	×
		三原小学校	教育	4,982㎡	1970.3	49	○	○	-	○	×	×	243	-	160	○	○	○
		女の都小学校	教育	4,524㎡	1976.3	43	○	○	-	×	×	×	243	-	187 (※4)	×	×	×
		西山台小学校	教育	4,043㎡	1979.3	40	○	○	-	×	×	×	243	-	178	×	×	×
		西浦上中学校	教育	7,793㎡	1951.11	67	○	○	-	×	×	×	243	-	475	×	×	×
		三川中学校	教育	7,061㎡	1989.3	30	○	○	-	○	×	×	243	-	155	×	×	×
	放課後 児童 クラブ	ひばりクラブ (西浦上小学校区)	子ども	108㎡	2012.3	7	-	○	-	×	×	-	291	-	408	○	○	×
		ひばりキッズ (西浦上小学校区)	子ども	122㎡	1954.3	65	-	○	-	×	×	×	291	-	720	×	×	×
		みはらクラブ (三原小学校区)	子ども	184㎡	1970.3	49	-	○	-	×	×	×	291	-	792	○	×	×
		ピノキオクラブ (女の都小学校区)	子ども	97㎡	2013.3	6	-	○	-	×	×	-	291	-	468	○	○	○
		たんぽぽクラブ (西山台小学校区)	子ども	146㎡	2009.12	9	-	○	-	×	×	-	267	-	696	○	○	○
	子育て	西浦上地区子育て支援セン ター「びよびよ」	交流 相談 親子	204㎡	1981.6	37	-	○	-	○	○	×	287	-	10,783	○	○	○
	保育所	大手保育所	子ども	651㎡	1993.3	26	-	○	-	×	×	×	294	-	延1,021	○	○	○

貸室の稼働率を記載している施設の部屋別の稼働率は次のとおりです。

種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
ホール	チトセピアホール	ホール	70.8%	70.8%
コミュニ ティ	三川地区ふれあい センター	第1研修室	65.1%	56.7%
		第2研修室	53.2%	
		第3研修室	58.8%	
		第1会議室	71.9%	
		第2会議室	68.7%	
	老人福祉センター すみれ荘	第3会議室	46.2%	74.5%
		講堂	88.5%	
		視聴覚室	59.8%	
		和室(1)	44.6%	
		和室(2)	43.1%	
		調理実習室	24.3%	

種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
コミュニ ティ	三川地区ふれあい センター	第1研修室	79.2%	35.6%
		第2研修室	33.0%	
		第3研修室	22.1%	
		第4研修室	36.2%	
		調理室	7.8%	
	老人福祉センター すみれ荘	集会室	82.3%	74.5%
		娯楽室	53.4%	
		会議室	36.9%	
		囲碁室	100.0%	
		将棋室	100.0%	

(2) 都市基盤施設

サービス 圏域	種類	施設の名前	施設の機能	床面積	建築年 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	利用状況			施設にかかる費用 (※3)		
													戸数	入居率	入居戸数 ※H30.4	H27	H28	H29
市域全体	市営住宅	三原住宅	住まい	5,628㎡	1968	51		×		×		×	90	募集 停止	79	○	○	○
		川平住宅	住まい	11,575㎡	1970	49		○		×		×	220	募集 停止	184	○	○	○
		女の都住宅	住まい	11,336㎡	1972	47		○		×		×	200	86.0%	172	×	○	○
		西山台住宅	住まい	5,967㎡	1978	41		×		×		×	84	募集 停止	67	○	○	○
		花丘住宅	住まい	2,910㎡	1981	38		○		×		×	40	100%	40	×	○	×
		文教住宅	住まい	8,630㎡	1983	36		○		×		○	122	98.4%	120	×	×	×
		千歳住宅	住まい	15,824㎡	1991	28		○		×		○	204	99.5%	203	○	○	×
														H29年度利用状況				
													日数	利用台数				
	市営駐車場	住吉町二輪車等駐車場	交通						-					365	6,269		○	○

(3) 公用施設

サービス 圏域	種類	施設の名前	施設の機能	床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況		施設にかかる費用 (※3)		
													日数	利用者数	H27	H28	H29
地区	行政	西浦上地域センター	手続き・相談	580㎡	1991.6	27	-	○	-	○	○	○	-	-	×	×	×
		北部現場事務所	その他	1,334㎡	1993.2	26	-	○	-	×	×	×	-	-	×	×	×

(4) 公園施設

サービス 圏域	種類	施設の名前	施設の機能	敷地面積	設置 年月 (※1)	経過 年数	避難 場所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)
地区	公園 (※5)	女の都運動公園(近隣公園)	レクリエーション憩い	22,000㎡	2004.4	14	-			-	○	
		泉町公園(近隣公園)	レクリエーション憩い	10,507㎡	1970.3	49	○			-	○	

※1…主たる建物が複数ある場合は、最も古い建物の建築年月を記載しています。

※2…1階のみの建物は、「-」と記載しています。

※3…市全体で同じ用途の建物と比較したときに利用者1人当たりの費用が平均より低い場合は○、高い場合は×（利用者数を把握していない施設については、床面積1㎡あたりの費用で比較）と表記しています。

※4…学校の利用者数は、平成30年5月1日現在の児童・生徒数です。

※5…公園は、比較的規模の小さい街区公園を除き、近隣公園のみを記載しています。

- 近隣公園…近隣に居住する住民の日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点となる公園です。
- 街区公園…街区内に居住する住民に利用されている公園です。

公共施設を見直すときのポイント（7つの視点）

(1) 市民利用型施設

サービス 圏域	種類	施設の名前	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計	
市域全体	コミュニティ	北公民館						✓		1	
	学校	長崎商業高等学校	✓				✓			2	
	ホール	チトセピアホール					✓			1	
地区	コミュニティ	三川地区ふれあいセンター								0	
		老人福祉センターすみれ荘	✓				✓	✓		3	
	学校	西浦上小学校	学校施設は、児童生徒によりよい教育環境を提供する視点で、 教育委員会が検討を進めております。								0
		川平小学校									0
		三原小学校									0
		女の都小学校									0
		西山台小学校									0
		西浦上中学校									0
		三川中学校									0
	放課後 児童 クラブ	ひばりクラブ(西浦上小学校区)			✓		✓	✓		3	
		ひばりキッズ(西浦上小学校区)	✓				✓	✓	✓	4	
		みはらクラブ(三原小学校区)	✓				✓	✓	✓	4	
		ピノキオクラブ(女の都小学校区)			✓		✓	✓		3	
		たんぼぼクラブ(西山台小学校区)					✓	✓		2	
	子育て	西浦上地区子育て支援センター 「びよびよ」	✓				✓			2	
保育所	大手保育所					✓			1		

(2) 都市基盤施設

サービス 圏域	種類	施設の名前	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域全体	市営住宅	三原住宅	✓	✓			✓	✓		4
		川平住宅	✓				✓	✓		3
		女の都住宅	✓				✓	✓		3
		西山台住宅	✓	✓	✓		✓	✓		5
		花丘住宅	✓				✓	✓	✓	4
		文教住宅	✓				✓	✓	✓	4
		千歳住宅	✓				✓	✓		3
	市営駐車場	住吉町二輪車等駐車場			✓					1

(3) 公用施設

サービス 圏域	種類	施設の名前	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
地区	行政	西浦上地域センター							✓	1
		北部現場事務所					✓		✓	2

(4) 公園施設

サービス 圏域	種類	施設の名前	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
地区	近隣公園	女の都運動公園								0
		泉町公園								0

【7つの視点のチェックについて】

- 1…建てられてからの年数が30年以上のものに✓
- 2…耐震性がない建物に✓
- 3…市全体で同じ種類の建物と比較したときに平均より貸室の稼働率または入居率が低い場合に✓
貸室の稼働率または入居率がない施設は、1日あたりの利用者数が平均より低い場合に✓
- 4…使われていない部屋などがある場合に✓
- 5…入口にスロープ、2階以上の建物にエレベーター、多目的トイレのいずれか1つでもなければ✓
- 6…地区内に同じような使い方ができる施設がある場合に✓
- 7…施設にかかる費用が3か年のうち2か年以上×の場合に✓

※地区計画に記載している公共施設配置図、公共施設の情報及び利用者数などのグラフは、地区関係者の皆さまへ計画（案）のご意見等をお伺いした時点（令和2年10月）のものです。

5 将来の方向性

≪「5 将来の方向性」の見方≫

〇〇施設の 施設配置の 基本的な考え方	※将来の長崎の姿（2040 年）を踏まえた行政サービスの方向性と、施設配置についての、市の基本的な考え方を記載しています。
---------------------------	---

ア 現状及び課題

(個別施設名)	
写真及び イメージ画像	【建築年】 【開館時間】 【休館日】 【年間利用者数】 【1 日あたりの利用者数】 【概要】 施設の経緯や、現状、使われ方などを記載しています。
【現状及び課題】 - ハード、ソフト面における現状・課題を記載しています。 - 市民対話で出された主な意見などを記載しています。	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

※施設配置についての基本的な考え方と、市民対話で頂いた意見・アイデア等を踏まえて検討した、当該施設の今後のあり方や方向性を記載しています。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
(A 施設)				施設のあり方を検討する
(B 施設)				適正管理を行う

今後見直しの検討が必要と判断した施設については、その実施期間を矢印で示しています。

当面、現施設を維持すると判断した施設については、矢印の記載を省略しています。

「施設のあり方や見直しの方向性」はロードマップにも簡潔に記載しています。

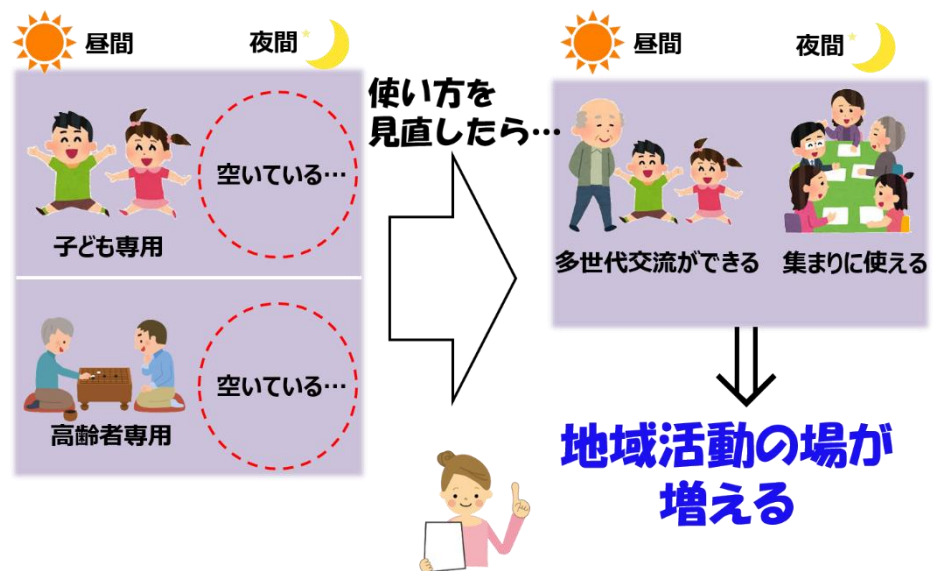
(1) 市民利用型施設

①コミュニティ活動施設（北公民館、三川地区ふれあいセンター、老人福祉センターすみれ荘）

コミュニティ活動
施設の施設配置の
基本的な考え方

人口減少、少子高齢化が進むなかで、地域住民がふれあい、共に助け合うことで地域の中で心地よく暮らせるような、住みよい地域社会づくりを目指しており、そのためには、住民が気軽に立ち寄れ、地域活動などが行える地域コミュニティの活動の場（「居場所」・「話し合いの場」・「活動の場」・「生涯学習の場」）が必要です。

今後は、ふれあいセンターや地区公民館など、地域の身近な施設に加え、特定年齢層を利用対象とした施設（老人憩の家や児童館・児童センター）も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で、地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。



施設の大規模改修又は建替え時期には、コミュニティの形成状況、人口動態、利用状況及び同地区内にある市の既存施設の状況なども考慮しながら、施設の廃止や施設規模及び機能の見直しを検討します。

(1) 小学校区に配置する施設

コミュニティ活動の場の配置については、市民に最も身近な場所でサービスを提供することができる範囲である、概ね小学校区へ配置します。

(2) 中学校区に配置する施設（兼小学校区施設）

多数の人数が見込まれる等の活動や行事のため、小学校区にある施設よりも広いスペースや特定の設備を備えた施設については、概ね中学校区での配置とします。中学校区に配置する施設は、小学校区に配置する施設を兼ねることとします。

なお、中学校区に配置する施設の標準規模は、延べ床面積 600 ㎡程度とし、集会室、会議室、調理室、図書室などの機能を有する施設を基本として配置することとします。

(3) 広域的利用として配置する施設（兼中学校区施設）

中学校区を超えた大規模な催しや講座等が可能な施設として、中学校区にある施設よりも広いスペースやホールなど特定の設備を備えた施設については、都市計画マスタープランにおける地域拠点または交通の便の良い場所に3か所配置します。広域的利用として配置する施設は、中学校区に配置する施設を兼ねることとします。

(4) 全市的利用として配置する施設（兼広域的施設、兼中学校区施設）

広域的利用として活用する施設と同様に大規模な催しや講座等が可能な施設として、広いスペースやホールなど特定の設備を備えた施設を交通の便利のよい都心部及び都心周辺部に2か所配置し、中央公民館と北公民館を位置付けます。

全市的利用として配置する施設は、広域的利用として配置する施設及び各地域の中学校区に配置する施設を兼ねることとします。ただし、今後、2つの施設が、中学校区に配置する施設を兼ねることができるかどうかについては、検討する必要があります。

また、中央公民館については、市民会館文化ホール及び市民体育館が併設されていることから全市的利用として配置する施設に位置付けるものですが、今後、同規模のホールを有する新たな文化施設が近隣に整備されるため、耐用年数 65 年（令和 20 年）経過前に文化ホール（ホール部分）を廃止する方針です。

具体的な廃止時期は未定ですが、将来的には施設の位置付けを検討する必要があります。

ア 現状及び課題

北公民館



【建築年】1991 年

【開館時間】9 : 00 ~ 21 : 00

【休館日】年末年始

【年間利用者数】155,708 人

【1日あたりの利用者数】531 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 主に公民館主催講座の開催や、学習グループの活動、図書の貸出しや学生等の学習の場として利用されています。

	西浦上地域センター、チトセピアホールとともに複合商業施設（チトセピア）内に設置されています。
【現状及び課題】 - 開館1日あたりの利用者数は、同種の施設の中で最も多くなっています。 - 市民対話では、 「図書室の拡大が必要なのでは。」 「チトセピアに地域センター等があるという場所の良さを活用して、もっと利用の仕方を工夫できないか。」 という意見が出されました。	

三川地区ふれあいセンター

	【建築年】 1994 年 【開館時間】 9 : 00～17 : 00 【休館日】 月曜日、年末年始 【年間利用者数】 15,548 人 【1日あたりの利用者数】 51 人 ※利用者数は平成29年度実績 【概要】 - 主に地域の行事・会議・グループによる講座等の活動や、行政の催しに使用されています。 - 地域の方々と構成する運営委員会に、指定管理者として管理運営を行っています。
	【現状及び課題】 - 中学校区に配置が可能な規模・機能を有しています。 - 三川中央公園に隣接し地域活動の拠点として活用されています。 - 市民対話では、 「登立口付近の住民は、公共交通の便がよくないため、あまり利用していない。」 という意見が出されました。

老人福祉センターすみれ荘

	【建築年】 1981 年 【開館時間】 10 : 00～16 : 30 【休館日】 日曜日・祝日、年末年始 【年間利用者数】 48,816 人 【1日あたりの利用者数】 167 人 ※利用者数は平成29年度実績

	【概要】 ● 老人福祉センターは、高齢者の方が入浴、談話やグループ活動、サークル活動などを通して健康の増進を図るための施設です。 ● 60 歳以上の方が利用できます（60 歳未満の方も必要があると認める場合は、利用することができます）。 ● 同じ建物内に西浦上地区子育て支援センター「ぴよぴよ」が併設されています。
	【現状及び課題】 ● 開館 1 日あたりの利用者数は、同種の施設の中で最も多くなっています。 ● エレベーターは設置されていません。 ● 駐車スペースはありません。バイク、自転車の駐車は可能です。 ● 市民対話では、 「少子高齢化の中で、高齢化にだけ対応した施設にするのがいいのだろうか。」 「お風呂の必要性について疑問を感じる。経費もかかっているため、あり方を見直しては。」 「全ての部屋が畳で使いづらい。」 「すみれ荘と子育て支援センター（ぴよぴよ）で幼老介護のような取り組みができないか。」 「階段は高齢者がつまづくと危ないので見直しが必要。」 「場所の案内表示がわかりにくい。」 「住吉地区は、高齢者や、子どもの数も増えてきている環境なので、こういう施設については、充実させることを考える必要がある。」 という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

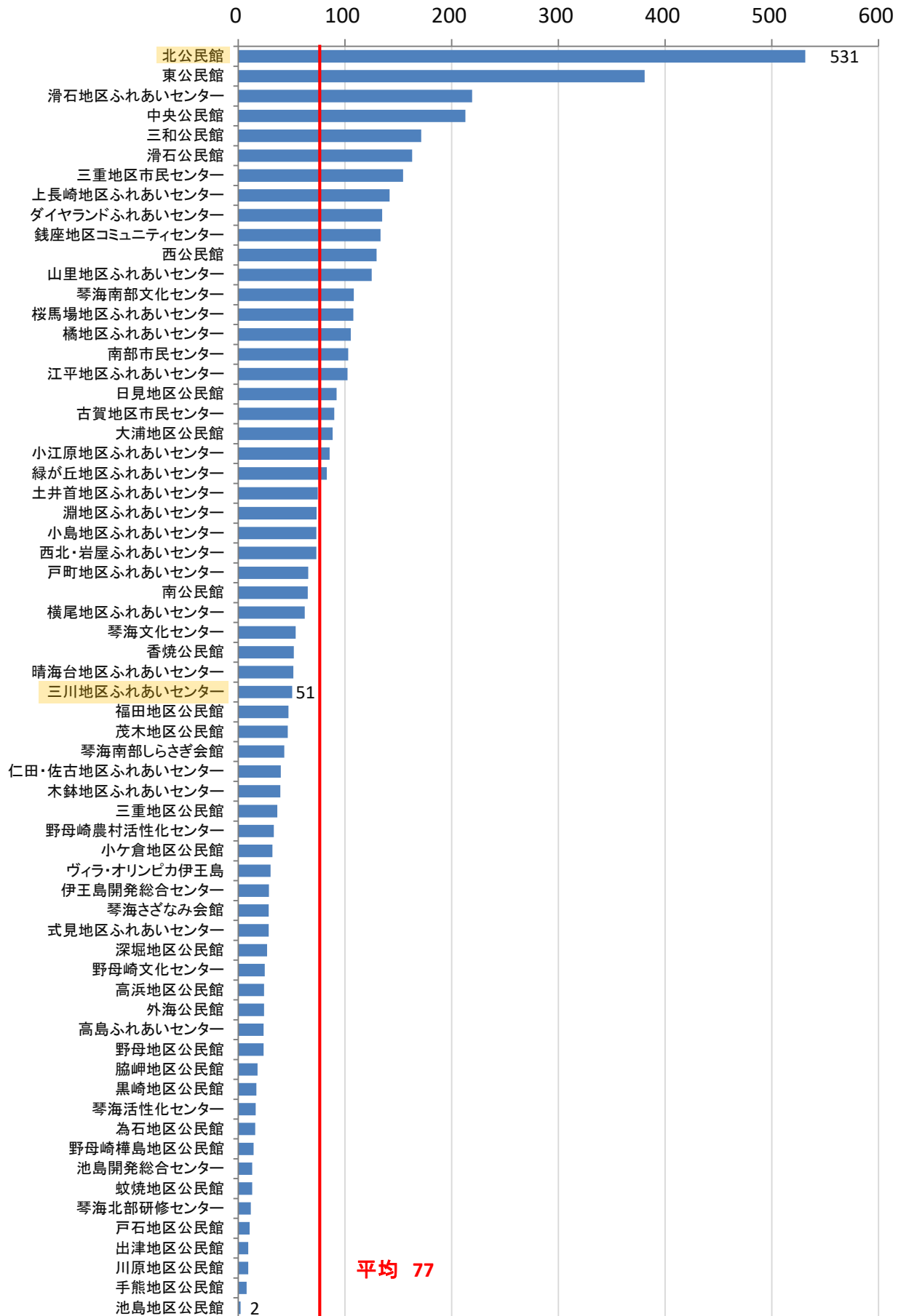
- 北公民館は、大規模な催しや講座等が可能な広いスペースや調理室などの設備を備えた施設であり、複合商業施設（チトセピア）に設置されている利便性もあり、全市的施設として市内全域の方に利用されています。
- すみれ荘については、施設の老朽化や利用の状況を見ながら、将来的には、高齢者の方だけではなく、地域の皆さんが使いやすい施設へと使い方を見直していきます。
- 三川地区ふれあいセンターについては、地域の皆さんのコミュニティ活動に利用できる施設として、現在の施設を引き続き適正に管理します。
- 小学校区に配置する施設については、市の既存施設の活用や、現にコミュニティ活動が行われている自治会集会所、町立公民館において確保します。なお、市有施設以外の施設を活用する場合は、施設の維持管理に必要な支援の検討を行っていきます。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
北公民館				適正管理を行う
三川地区ふれあいセンター				
老人福祉センターすみれ荘				高齢者専用施設としての 使い方を見直し、施設の あり方を検討する

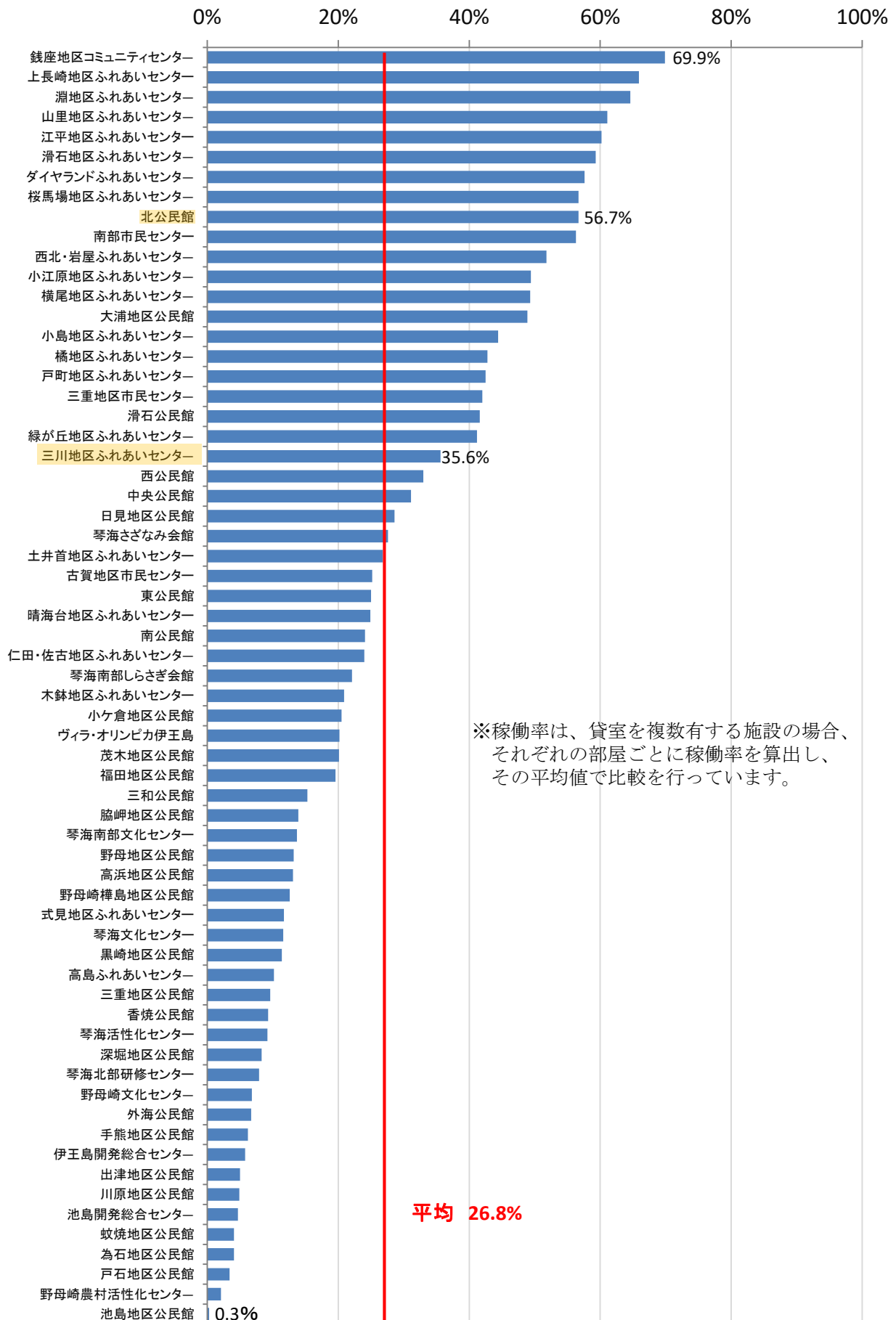
コミュニティ活動施設の開館1日当たりの利用者数 (H29 年度実績)

(単位: 人)



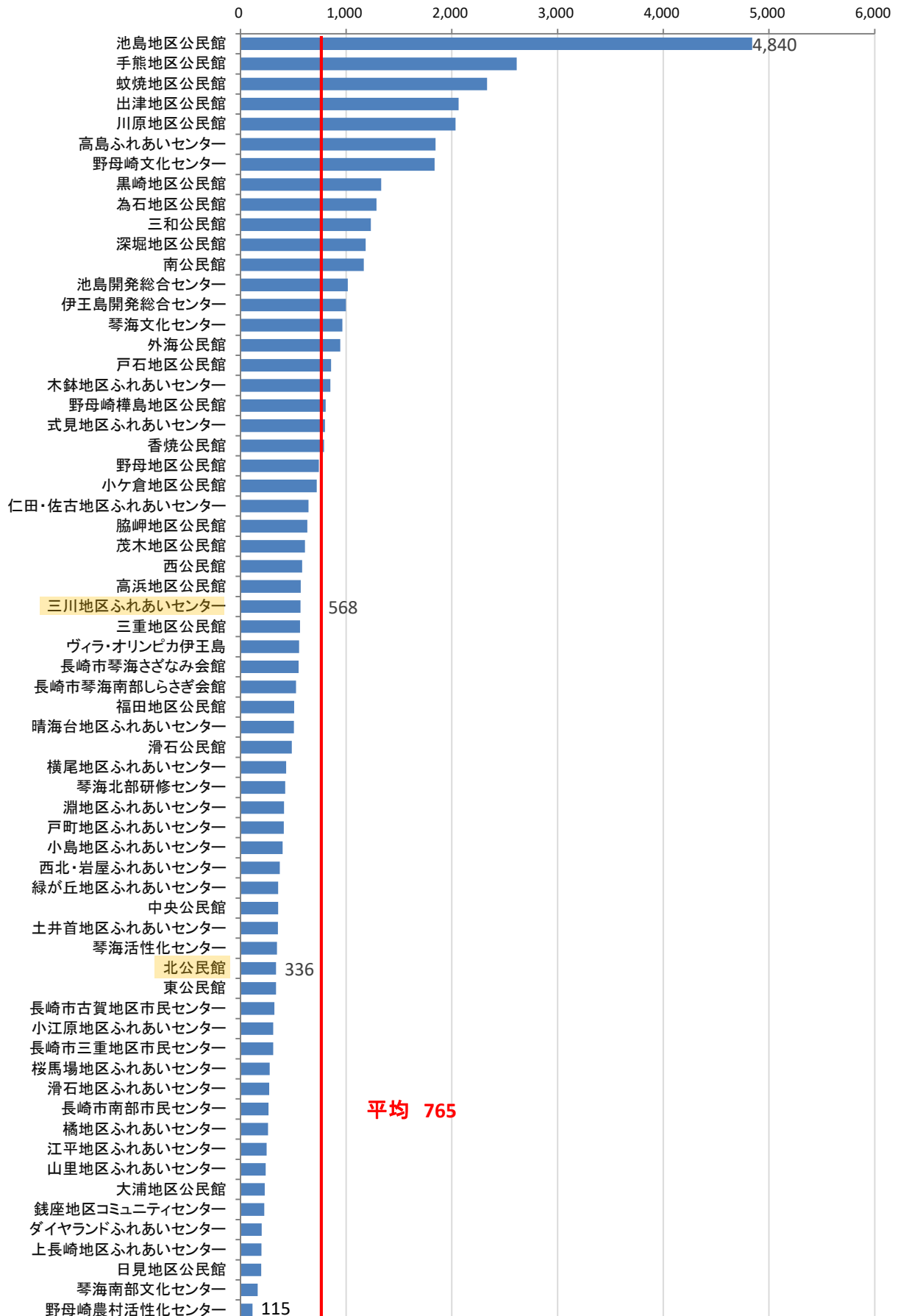
コミュニティ活動施設の貸室の稼働率 (H29 年度実績)

(単位: %)



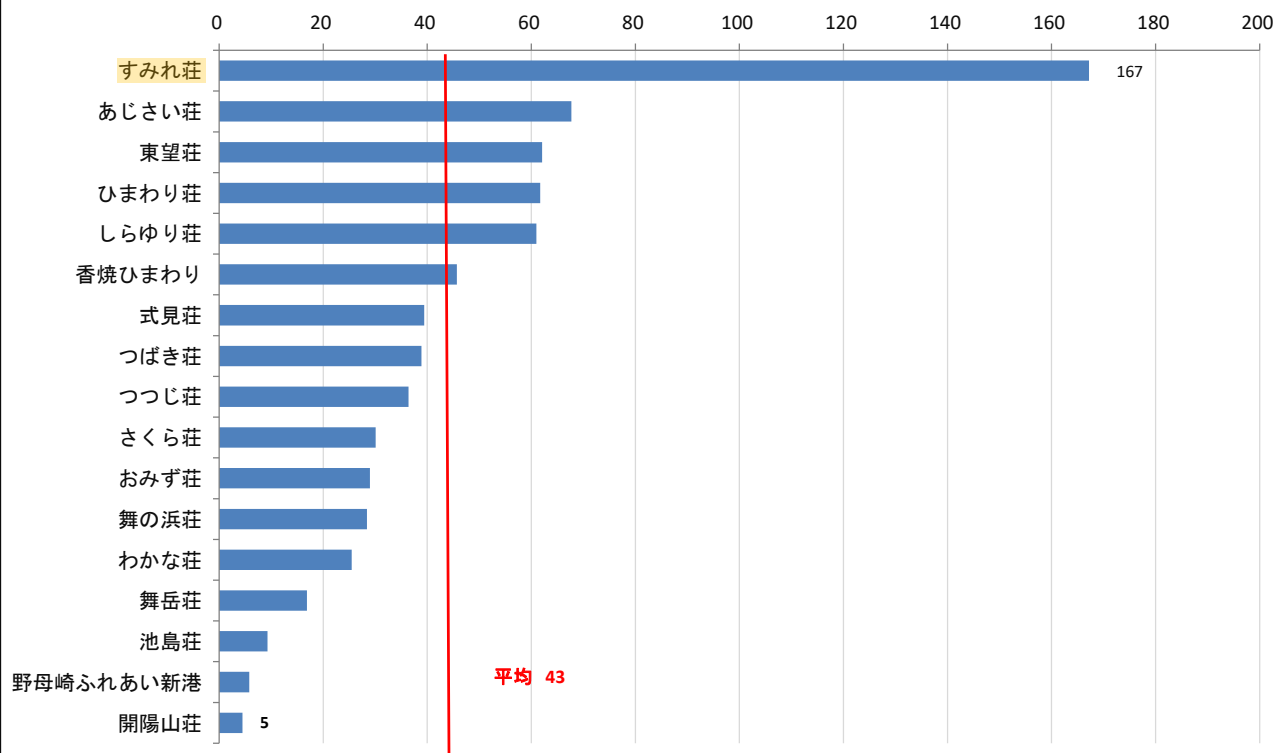
コミュニティ活動施設の利用者1人当たりのコスト (H29 年度実績)

(単位:円)



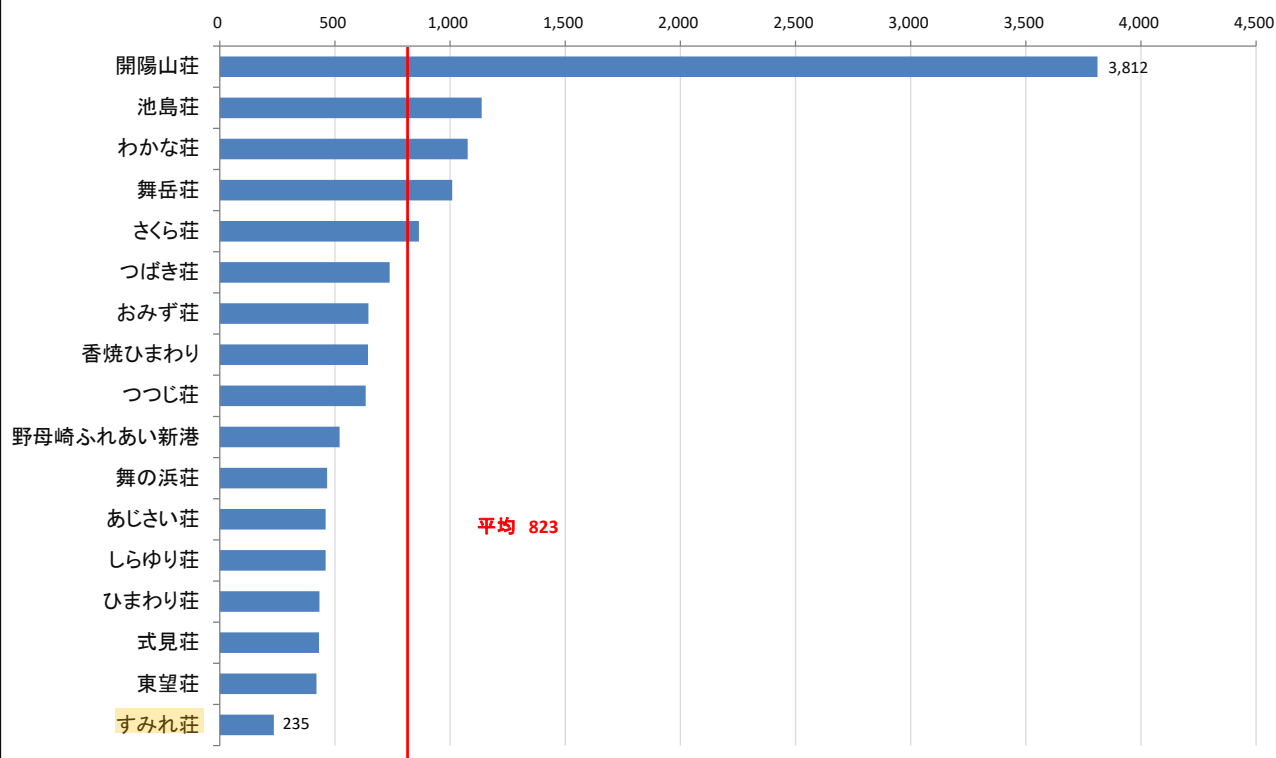
老人憩の家等の開館1日当たりの利用者数 (H29 年度実績)

(単位:人)



老人憩の家等の利用者1人当たりのコスト (H29 年度実績)

(単位:円)



②ホール型施設（チトセピアホール）

ホール型施設の
施設配置の
基本的な考え方

人口減少や少子高齢化の進展など、社会環境が変化するなかにあっても、市民一人ひとりが心豊かな人生を送ることができるよう、文化に親しみ創造する機会を創出し、芸術文化の振興を図るとともに、市民が集い交流する場づくりを通じて市民生活の向上に寄与します。

芸術文化の振興のためには、文化活動に取り組む市民が練習や、その成果を発表する場及び市民が芸術文化を鑑賞する場が不可欠であり、それらの機能を備えた拠点が必要となります。

また、市民が集い交流する場としても、誰もが利用できる拠点が必要となります。

一方、人口減少や少子高齢化が進む中、本市の経済の持続的な発展のためには、交流人口の拡大により、経済活性化を図ることが重要であり、国内外から多くの来訪者を呼び込むとともに、市民の交流を促進する拠点が必要となります。

ホール型施設は、全市施設として、公共交通機関の便がよく、市内全域から利用しやすい都心部及び都心周辺部に配置します。

ア 現状及び課題

チトセピアホール



【建築年】1991 年

【開館時間】9：00～22：00（催事により異なる）

【休館日】年末年始

【年間利用者数】45,713 人

【1日あたりの利用者数】145 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 市民の文化活動の振興や豊かな市民生活の向上を図るために設置されています。
- 北公民館、西浦上地域センターとともに複合商業施設（チトセピア）内に設置されています。
- 500 名の収容が可能な可動式の客席を備えており、演奏会・講演会・演劇等に利用されています。

【現状及び課題】

- 可動式の客席を収納して、広い空間が確保できるため、展示やワークショップなど舞台を使う催し以外での活動でも利用されています。
- 市民対話では、
「ホールのロビーは割と広いので、公民館の図書館が狭い時や、ちょっとした会議で利用できないのだろうか。」

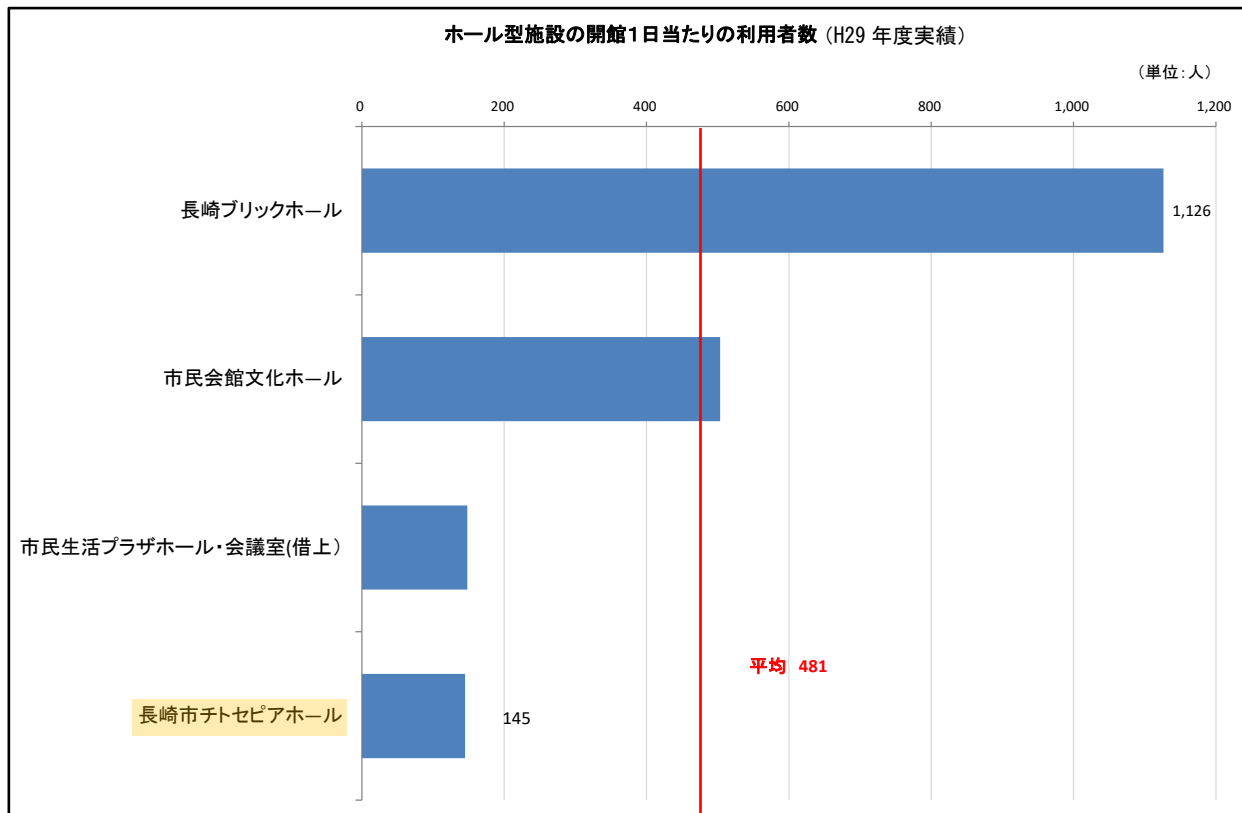
「ホールでは自主企画が行われるなど、民間委託（指定管理）の良さが凄く出ている。」
という意見が出されました。

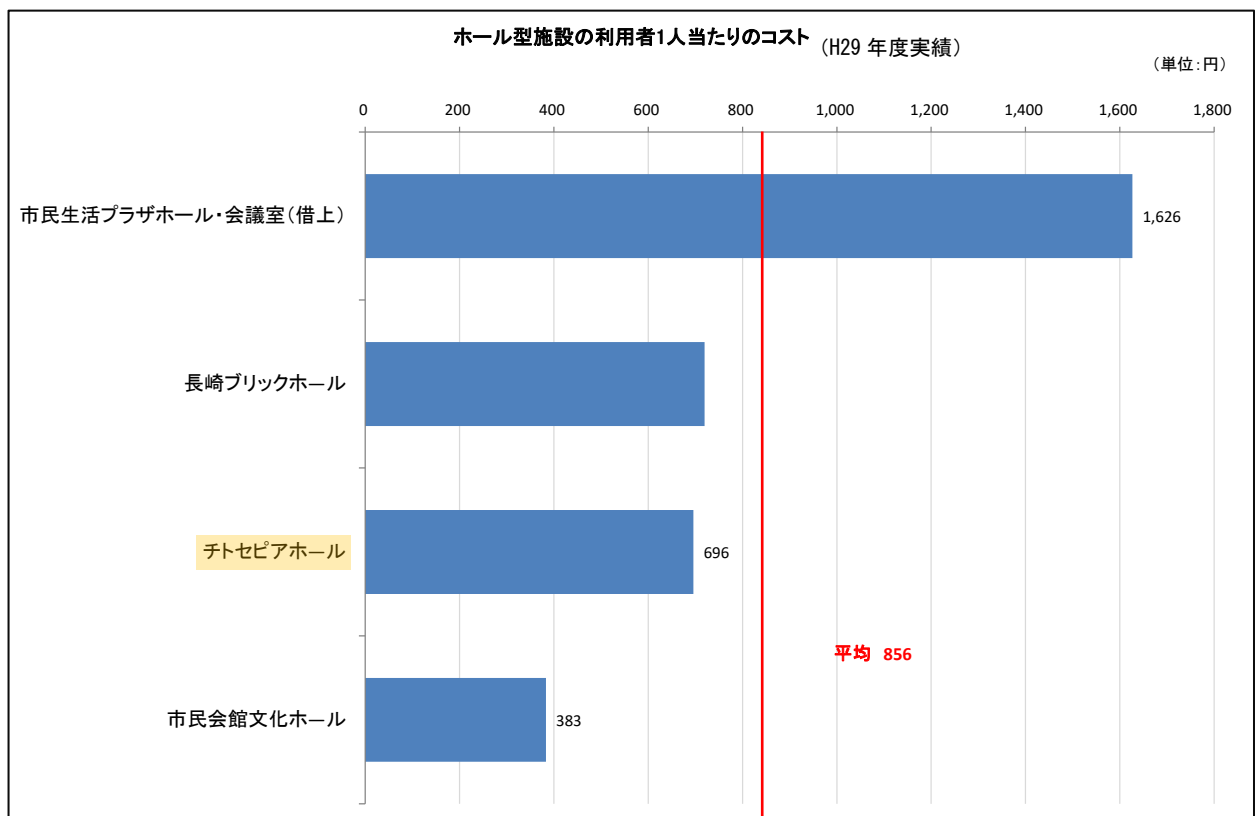
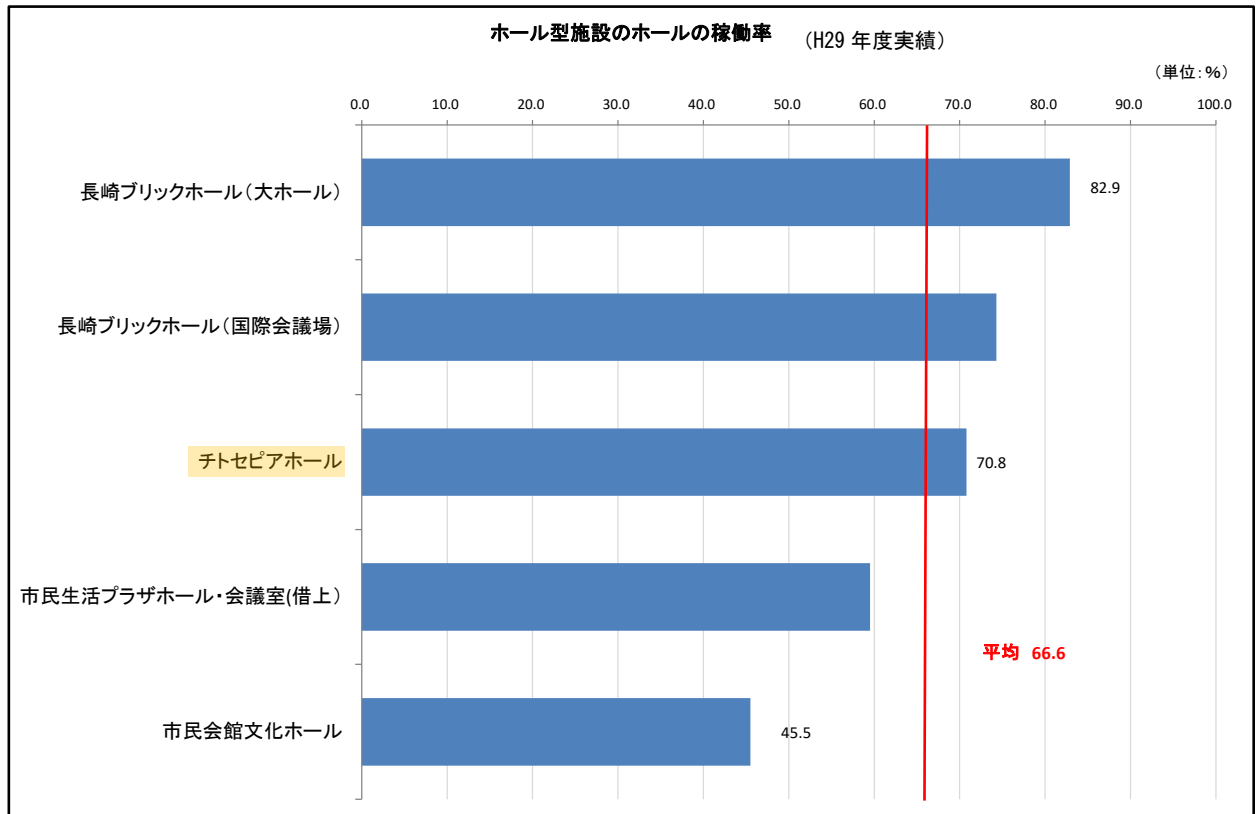
イ 施設のあり方や見直しの方向性

チトセピアホールは、市民が文化に親しんだり、集い交流する場として、多くの方々にご利用いただけるよう、現在の施設を引き続き適正に管理していきます。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
チトセピアホール				適正管理を行う





③学校（西浦上小学校、川平小学校、三原小学校、女の都小学校、西山台小学校、西浦上中学校、三川中学校、長崎商業高等学校）

学校の施設配置の 基本的な考え方

学校は、児童生徒が確かな学力を身に付け、集団の中で社会性を育んでいく役割を担っています。また、学校行事や部活動などを通して人間性、協調性を育む場でもあります。

子どもたちは集団生活の中で学習することによって、知的にも社会的にも成長するため、一定の学校規模を確保する必要があります。

長崎市の小中学校の児童生徒数は、昭和 30 年代のピーク時と比較し、約 7 割減少しておりますが、その一方で、学校の数大きく変わっておらず、多くの学校で小規模化が進んでいます。

このような中、子どもたちが集団生活の中で活気に満ちた活動ができるような学校規模を確保するため、「望ましい学校規模」として、小学校にあっては、人間関係の固定化を防ぎ、集団の中で多様な考え方にふれ、切磋琢磨できるよう、クラス替えができる 12 から 18 学級としています。

中学校では、これらに加え、全教科に教員配置ができることや、部活動の十分な選択ができることなどの理由により、9 から 18 学級とし、小中学校の規模の適正化と適正配置に取り組みます。

また、児童生徒の通学については、原則徒歩通学としますが、バス等の交通機関の利用を認める場合は小学校においては通学距離 2 k m 以上、中学校においては 3 k m 以上の際に通学費の一定額を補助しており（小学校で 4 k m 以上、中学校で 6 k m 以上の場合は全額補助）、自宅から学校までバス等の交通機関の利用を含めて概ね 1 時間以内の範囲で適正配置を行います。

ア 現状及び課題

※児童生徒数は、平成 30 年 5 月 1 日現在

西浦上小学校（2025 年_新校舎竣工予定）		川平小学校（2020 年 3 月閉校）	
	【建築年】 1954 年 【児童数】 761 人		【建築年】 1986 年 【児童数】 31 人
三原小学校		女の都小学校	
	【建築年】 1970 年 【児童数】 160 人		【建築年】 1976 年 【児童数】 187 人

西山台小学校



【建築年】1979 年

【児童数】178 人

西浦上中学校



【建築年】1951 年

【生徒数】475 人

三川中学校



【建築年】1989 年

【生徒数】155 人

長崎商業高等学校



【建築年】1985 年

【生徒数】716 人

【設置学科】情報国際ビジネス科

共 通

【現状及び課題】

- 西浦上小学校は、建築後 60 年を経過し老朽化が進んでいるため、建替計画に着手しています。
- 市民対話では、
「小学校の統廃合が検討されているが、建物を残して活用を考えてほしい。」
「仮に廃校になった場合には、サロンやスポーツ施設、ボランティア活動ができるような施設にするなど、活用を検討して欲しい。」
「災害時に学校体育館を利用することになった場合のため、クーラーや間仕切りなどの環境整備が必要だ。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

「長崎市立小学校・中学校における規模の適正化と適正配置の基本方針」に基づく「学校規模の適正化と適正配置にかかる実施計画（案）」において、西浦上・三川地区の小中学校では、女の都小学校が、現時点では優先して規模の適正化が必要な学校として位置付けられています。

今後とも、児童生徒数の推移を注視しながら、施設については、適正な維持管理に努めます。

長崎商業高校については、唯一の市立高校として、現在の施設を引き続き適正に管理していきます。

また、老朽化した学校施設については、計画的に改修、建替えを行います。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
西浦上小学校				建替えを行う
川平小学校				学校規模の適正化と適正配置の協議を行う
三原小学校				適正管理を行う
女の都小学校				学校規模の適正化と適正配置の協議を行う
西山台小学校				適正管理を行う
西浦上中学校				現施設を適正管理し、計画的に改修、建替えを行う
三川中学校				適正管理を行う
長崎商業高等学校				適正管理を行う

④放課後児童クラブ（ひばりクラブ、ひばりキッズ、みはらクラブ、ピノキオクラブ、たんぽぽクラブ）

放課後児童クラブ の施設配置の 基本的な考え方

子どもたちの放課後等における安全・安心な居場所の確保を図るために、小学校区ごとに放課後児童クラブを設置します。

児童数は、ほとんどの小学校において減少が見込まれるものの、保護者が安心して働けるよう、子どもたちの放課後等において、適切な遊びや生活ができる場所を提供する必要があるため、基本的には、小学校区ごとに利用見込みに応じた放課後児童クラブを配置することとしています。

放課後児童クラブの子どもの集団の規模は、放課後児童クラブ運営指針に基づき、子どもが相互に関係性を構築し、1つの集団としてまとまりをもって共に生活し、放課後児童支援員が個々の子どもと信頼関係を築くことができる規模として、概ね40人以下とします。

放課後児童クラブの配置については、学校の統廃合と併せて、事業者に対し放課後児童クラブの運営の統合を働きかけていくとともに、1つの事業者が複数の放課後児童クラブの運営を行うよう、調整を図ります。

また、学校の統廃合にかかわらず規模が小さい放課後児童クラブが生じる場合は、子どもたちの環境面や、クラブの運営面における影響を考慮し、特に利用児童数が10人以下の小規模の放課後児童クラブについては、適正な規模となるよう統合を図っていきます。

その際、放課後児童クラブが未設置校区となる児童については、既存の送迎支援に係る補助制度の利用を図りながら、安全面の確保を行っていきます。

新たな施設整備や施設の更新が必要となる場合は、事業者による施設整備を支援することで、子どもたちの放課後等における居場所の確保を図ります。

ア 現状及び課題

ひばりクラブ（2021年2月_解体済）



【建築年】2012年

【月平均登録者数】34人 ※月平均登録者数は平成29年度実績

【概要】

- 西浦上小学校の敷地内に設置されています。

学童保育ひばり：ひばりキッズ／ひばりクラブ



【建築年】1954年

【月平均登録数】60人 ※月平均登録者数は平成29年度実績

【概要】

- 西浦上小学校の転用可能教室を活用し設置されています。

みはらクラブ



【建築年】1970 年

【月平均登録数】66 人 ※月平均登録者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 三原小学校の転用可能教室を活用し設置されています。

ピノキオクラブ



【建築年】2013 年

【月平均登録数】39 人 ※月平均登録者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 女之都小学校の敷地内に設置されています。

たんぽぽクラブ



【建築年】2009 年

【月平均登録数】58 人 ※月平均登録者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 西山台小学校の敷地内に設置されています。

共通

【現状及び課題】

- 学校内に設置されている放課後児童クラブの運営にあたっては、学校側との管理区分を明確にし、安全性を確保する必要があります。

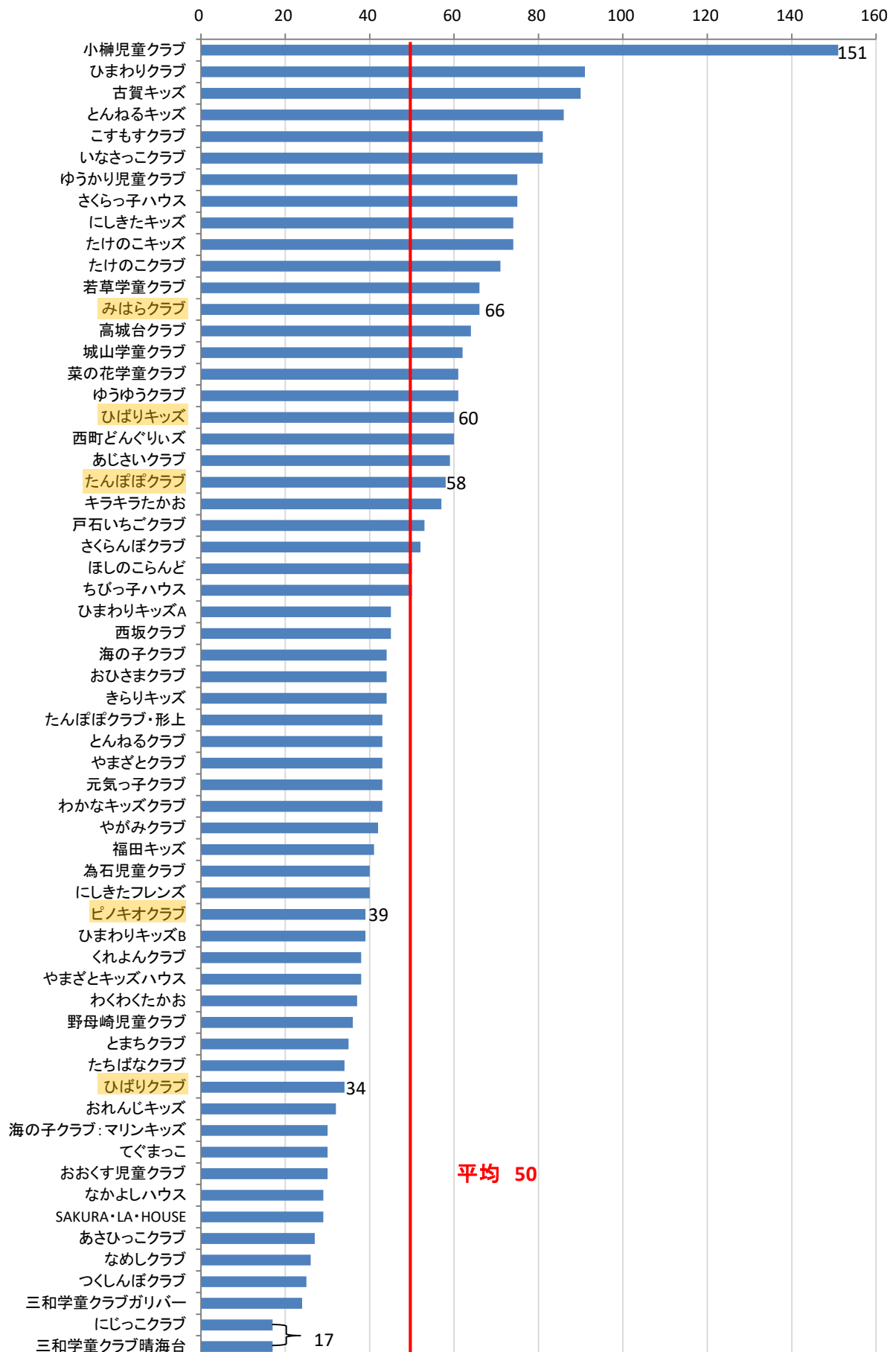
イ 施設のあり方や見直しの方向性

- 放課後児童クラブについては、今後も現在の施設を適正に管理していきますが、学校の適正配置が進んだ場合には、学校の統廃合と併せて、事業者に対し放課後児童クラブの運営の統合を働きかけていきます。また、校舎の建替えがなされる場合は、機能を確保するため、民間施設への移転等も含め、運営事業者と協議します。
- 学校の転用可能教室や敷地内に設置されている施設は、今後も学校側との管理区分を明確にし、安全性を確保しながら運営していきます。

ウ ロードマップ

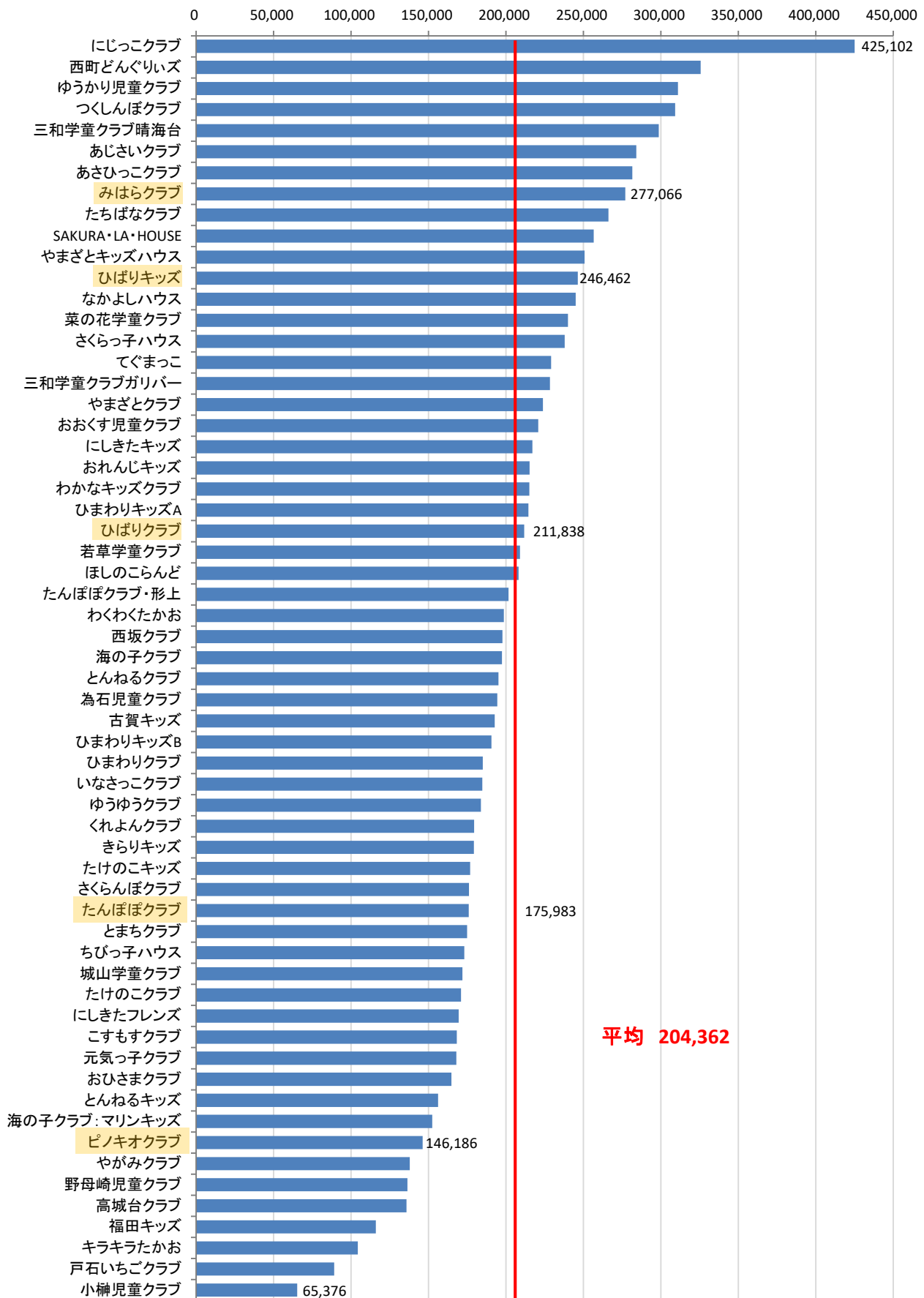
施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
ひばりクラブ				適正管理を行うとともに、学校の適正配置に併せ、事業者にクラブの統合を働きかけていく 校舎の建替えがなされる場合は、機能を確保するための手法を検討する
学童保育ひばり：ひばりキッズ／ひばりクラブ				
みはらクラブ				
ピノキオクラブ				
たんぽぽクラブ				

放課後児童クラブの施設別の月平均登録者数 (H29 年度実績) (単位:人)



放課後児童クラブの月平均登録者1人当たりの年間コスト (H29 年度実績)

(単位:円)



⑤子育て関連施設（西浦上地区子育て支援センター「ぴよぴよ」）

子育て関連施設の 施設配置の 基本的な考え方	少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化など、家庭や地域の状況が変化してきたことにより、子育てに不安や負担を感じている保護者が増加しています。また、今後の人口減少により、更に状況が変化することが予想されますが、安心して子どもを生み育てることができ、地域や社会に見守られながら子どもたちが健やかに育つことができるよう、子育て支援機能を充実します。 そこで、子育ての不安感・負担感を軽減することを目的として、地域の身近な場所で保護者が気軽に相談、情報提供、交流ができる機能を持った子育て支援センターを設置します。当面の目標として、子ども・子育て支援事業計画に基づき、市内を16区域に区分し、利便性を勘案して、各1か所配置します。 設置にあたっては、市の既存施設の活用に加え、民間施設も活用しますが、活用できる施設がない場合には、新設について検討します。 また、発達障害のある子どもや発達が気になる子どもを育てる保護者の負担軽減を図るため、気軽に交流や相談等ができる発達障害支援に特化した子育て支援センターを市内に配置するとともに、利用者の実態やニーズを踏まえて、より良い施設のあり方及び場所についても検討します。
---------------------------------------	--

ア 現状及び課題

西浦上地区子育て支援センター「ぴよぴよ」

	【建築年】1981年 【開所時間】10:00～16:00 【休館日】日曜日・祝日、年末年始 【年間利用者数】10,783人 【1日あたりの利用者数】38人 ※利用者数は平成29年度実績 【概要】 ● 長崎市で初めてとなる子育て支援センターとして、市の既存施設（上下水道局旧北営業所）を活用し、2006年に開設しています。 ● 同じ建物に老人福祉センターすみれ荘が併設されています。
【現状及び課題】 ● 開館1日あたり利用者数が、現在市内にある子育て支援センターの中で最も多い施設です。 ● 駐車スペースはありません。 ● 市民対話では 「ぴよぴよとすみれ荘は案内表示がわかりにくい。駐車場もない。」 「利用者が多く、部屋が狭い。すみれ荘との壁を取り払いスペースを有効に活用できないか。」 「駐車スペースがなく、設備も古い。チトセピアにあれば子育てがやりやすくなるのでは。」 「ぴよぴよは、そのままで維持するのではなく、設備の使い勝手の見直しが必要では。」	

「すみれ荘とびよびよで幼老介護のような取り組みができないか。」

「住吉地区は、高齢者や、子どもの数も増えてきている環境なので、そういう施設については、充実させることを考える必要がある。」

という意見が出されました。

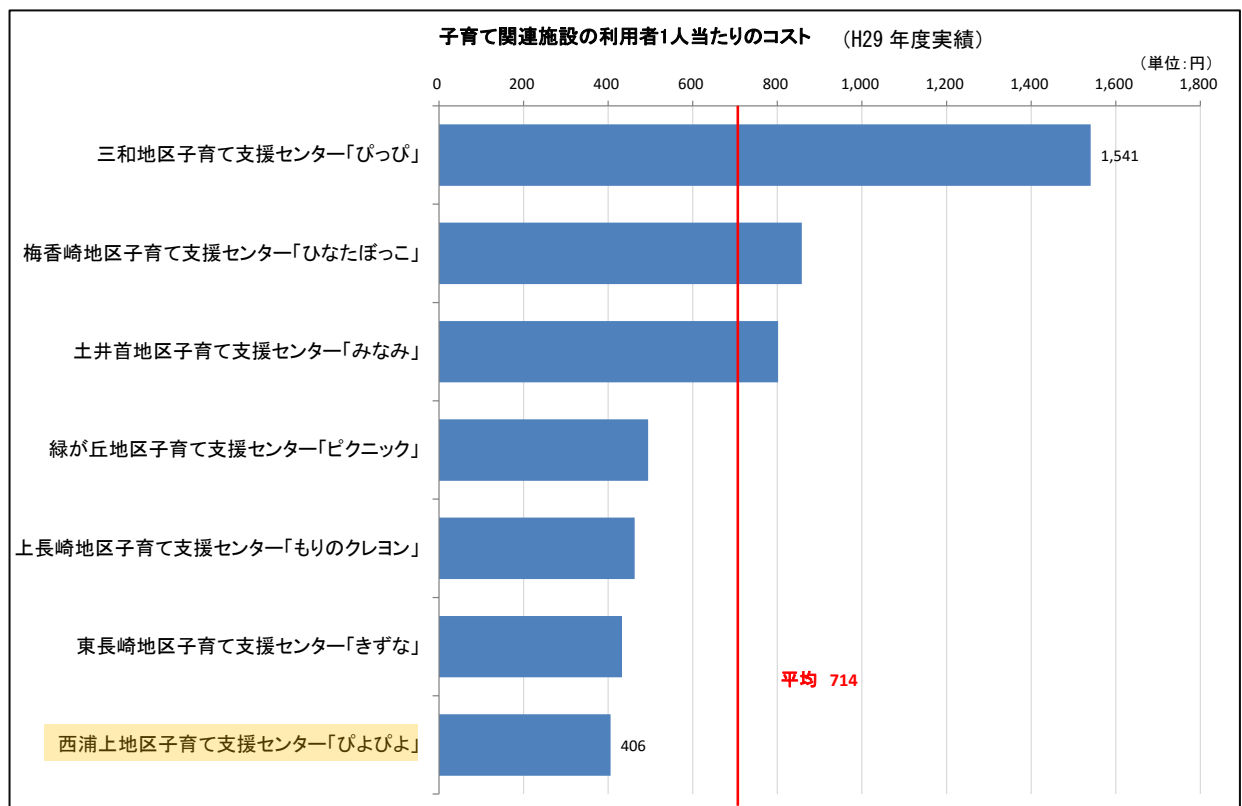
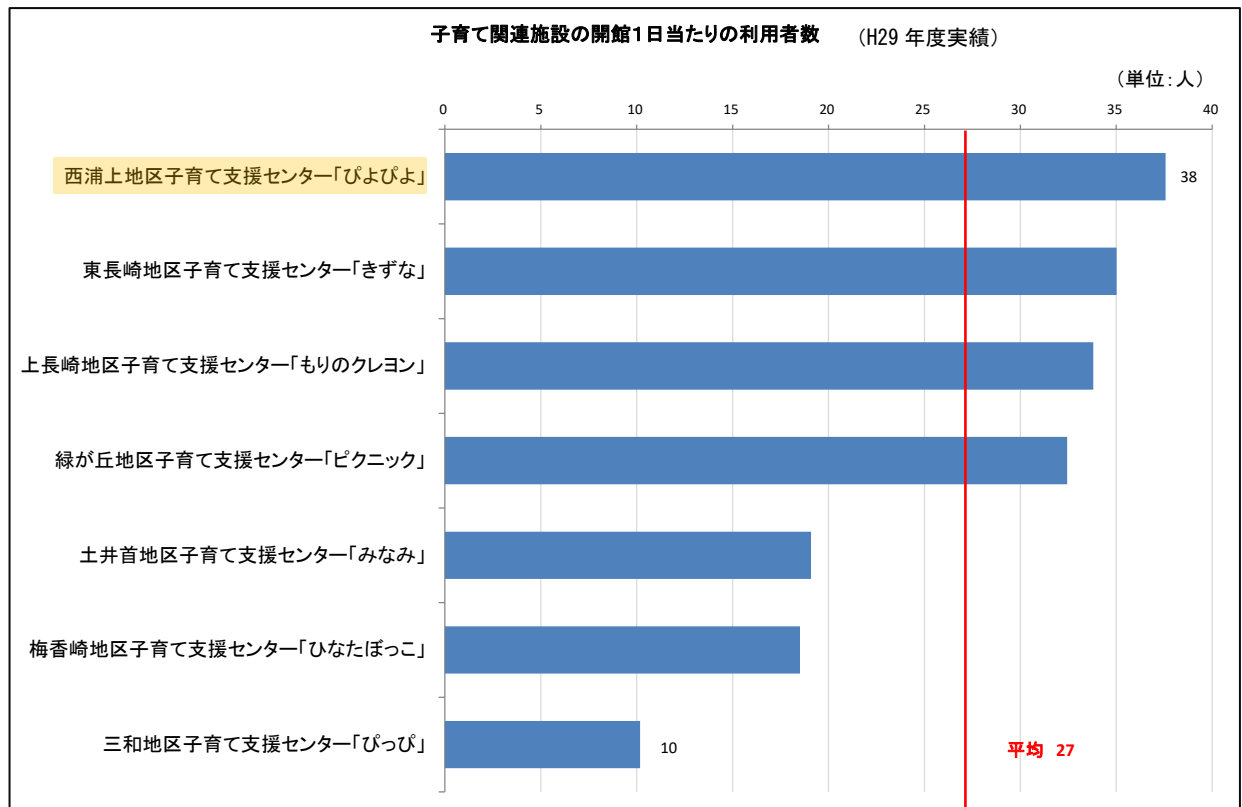
イ 施設のあり方や見直しの方向性

西浦上地区子育て支援センターは、安心して子どもを生み育てることができ、地域や社会に見守られながら子どもたちが健やかに育つことができるよう、現在の施設を引き続き適正に管理します。

なお、市内にある子育て支援センターの中でも利用者が多くなっていますが、近隣の子育て支援センター未設置地区への設置を進めることで、利用者の分散化を図っていきます。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
西浦上地区子育て支援センター「びよびよ」				適正管理を行う



⑥保育所・幼稚園（大手保育所）

保育園・幼稚園の 施設配置 の基本的な考え方	就労などの理由により、保護者に代わって保育を行う「保育サービス」及び、幼児期における教育を行う「幼児教育サービス」は、人口減少や社会情勢の変化にあっても、安心して子どもを生み育て、地域や社会に見守られながら、子どもたちが健やかに育つ環境を整えるうえでは必要です。 「官から民へ」の流れの中で、行政が果たすべき役割を見極め、民間に事業を委ねることが可能なものについては民間活力を活用しますが、行政においては、「公的幼児教育・保育の確保」（セーフティネット機能）という役割を担う必要があることや、教育・保育への行政による一定の関与を確保する観点から、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ市立の認定こども園が必要です。 配置については、全市的なエリアを対象として、交通の利便性を勘案し、市内中心部に1か所配置します。
---------------------------------------	---

ア 現状及び課題

大手保育所	
	【建築年】1993 年 【開園時間】7:15～18:15 【休園日】日曜日・祝日、年末年始 【年間利用者数】延1,021人 ※利用者数は平成29年度実績 【概要】 就労などのため、家庭で保育できない保護者に代わって保育するために設置されています。
【現状及び課題】 定員（80人）に対する入所希望は、他の市立保育所に比べて多い傾向にあります。	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

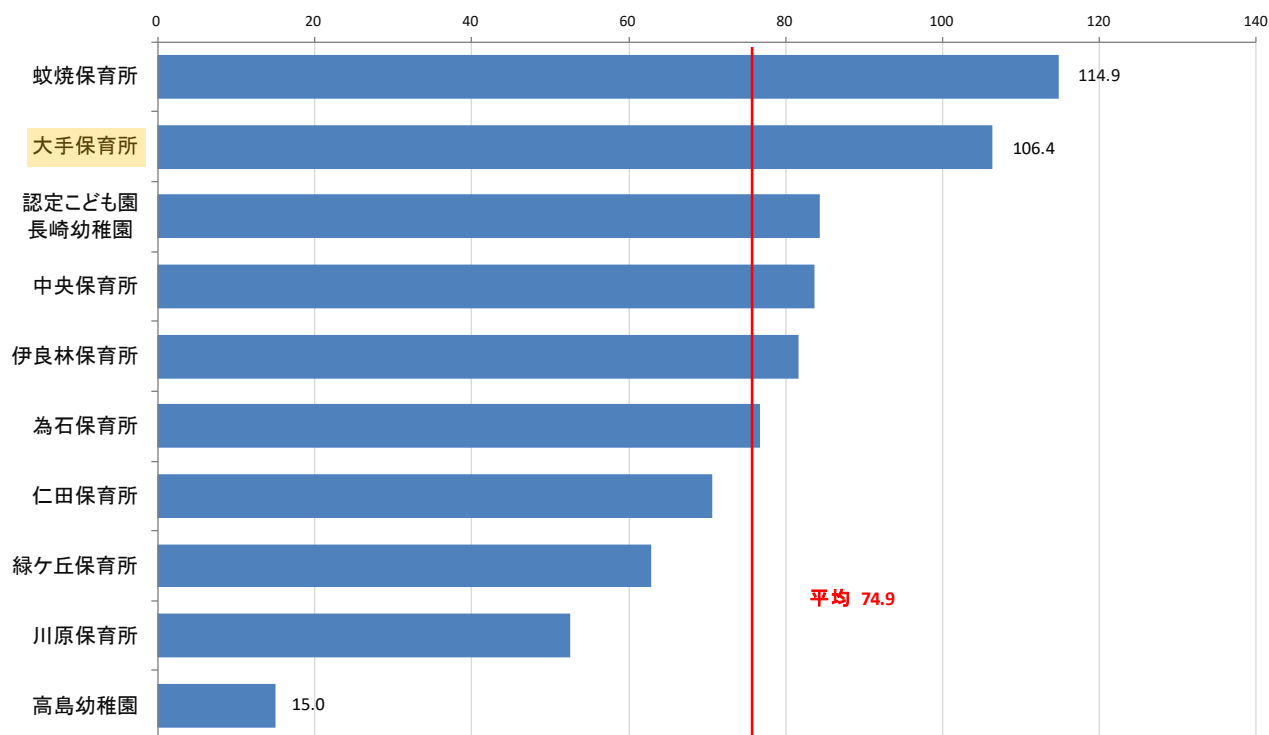
大手保育所については、現時点では入所率が高いため当面の間存続しますが、将来的には廃止します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
大手保育所				区域内の保育施設の今後の利用状況を見ながら、将来的には廃止する

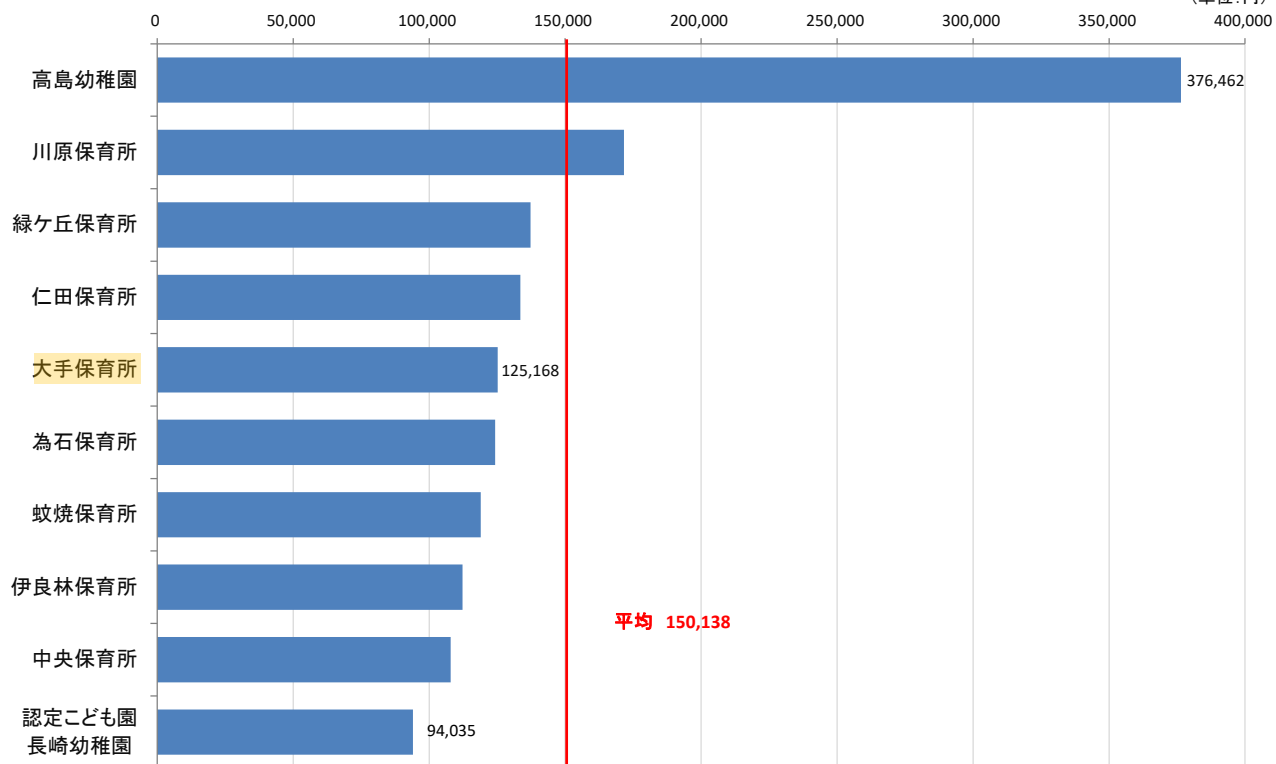
保育所・幼稚園の入所率(H29年度実績)

(単位: %)



保育所・幼稚園の利用者1人当たりのコスト(H29年度実績)

(単位: 円)



(2) 都市基盤施設

①市営住宅（三原住宅、川平住宅、女の都住宅、西山台住宅、花丘住宅、文教住宅、千歳住宅）

市営住宅の
施設配置の
基本的な考え方

将来の人口及び世帯数の減少により、市営住宅の需要は低下することが予想されますが、少子高齢化の進行や社会的弱者の多様化等の社会情勢の変化を踏まえ、民間賃貸住宅市場において最低居住水準の住居を確保できない低額所得者や、入居制限を受ける可能性がある高齢者や障害者、子育て世帯等の住宅困窮度の高い世帯などの、真に救済すべき世帯の推計を行い、それらを救済するセーフティネットとしての役割を重点的に担えるよう、住宅の確保を支援することで、市民生活の安定を図ります。

配置については、立地適正化計画によるコンパクトなまちづくりを進めていくことを踏まえ、市内各エリアにおける将来人口や特性を十分に勘案し、県営住宅も含めた公営住宅について、需要と供給のバランスが図れるよう、都心周辺部及び地域拠点の市営住宅は、適正な管理戸数を維持します。

その他の地区については、地域コミュニティが維持できるよう住宅需要や民間の動向を踏まえたうえで管理戸数の縮減を行います。

また、島しょ部については、現在行っている集約や用途廃止、除却等を継続し、管理戸数の縮減を推進します。

ア 現状及び課題

三原住宅		川平住宅	
	【建築年】1968 年 【管理戸数】90 戸		【建築年】1970 年 【管理戸数】220 戸
女の都住宅		西山台住宅	
	【建築年】1972 年 【管理戸数】200 戸		【建築年】1978 年 【管理戸数】84 戸
花丘住宅		文教住宅	
	【建築年】1981 年 【管理戸数】40 戸		【建築年】1983 年 【管理戸数】122 戸

千歳住宅	
	【建築年】 1991 年 【管理戸数】 204 戸
【現状及び課題】 ● 三原住宅は老朽化が進んでいます。 ● 市民対話では、 「建て替える際は、住宅だけでなく、公共的な他の施設と一緒にしてもらいたい。」 「近くに同じような県営住宅があつたりするので、効率的な見直しが必要。」 という意見が出されました。	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

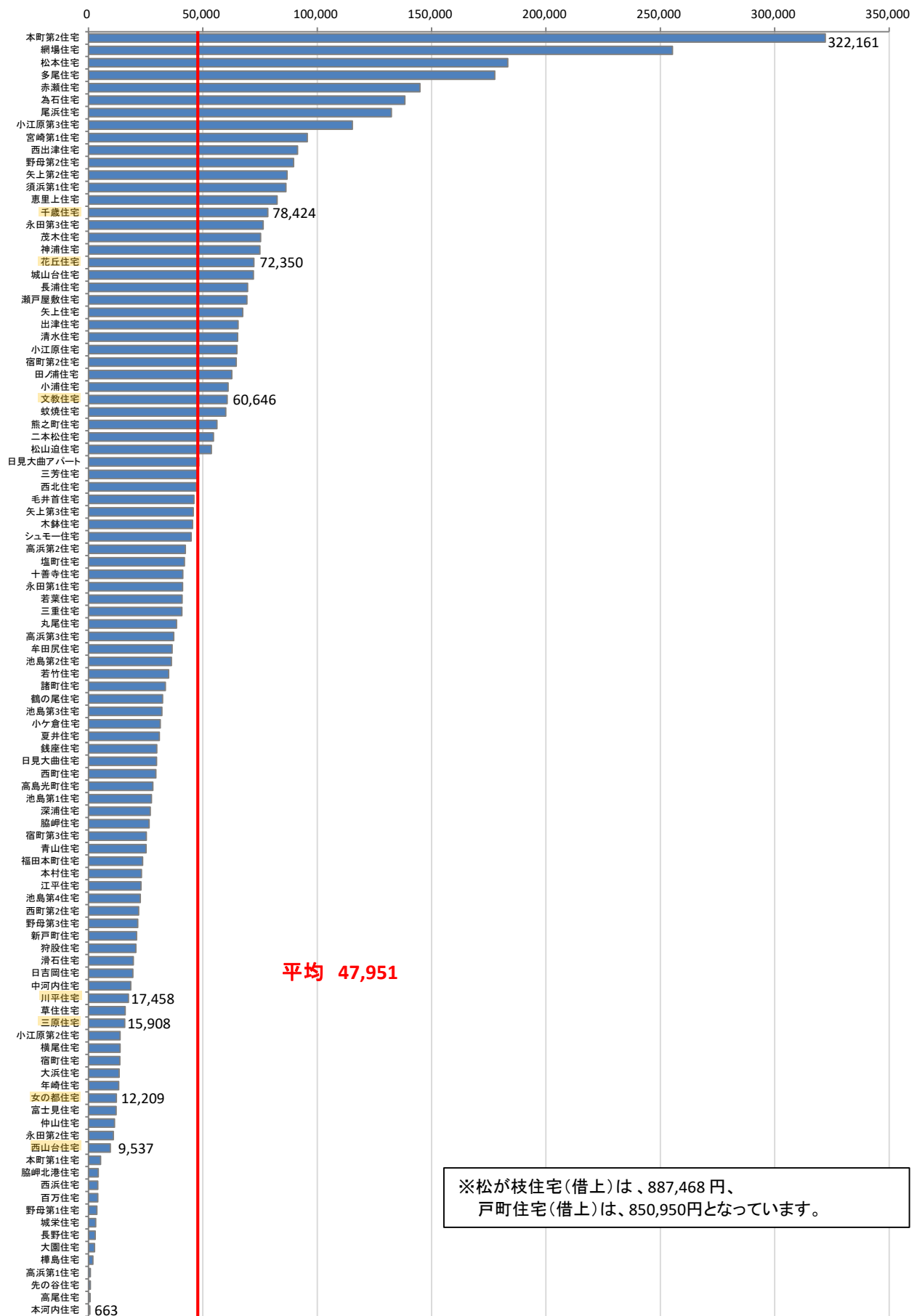
- 三原住宅については、老朽化し耐震性が低いことから、今後、建替事業を実施し規模を縮小する予定です。規模の縮小により余剰地が生じた場合は、民間活用も含めて効果的な活用方法を検討していきます。
- その他の住宅については、現在の建物を適正に管理し、大規模な改修や建替えが必要となるタイミングで、人口などの状況を踏まえ、規模の検討を行います。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
三原住宅				縮小建替えを行う
川平住宅				適正管理を行う 建替える場合は、集約化 に努めるとともに、住宅 需要や民間の動向を勘案 し、配置を見直す
女の都住宅				
西山台住宅				
花丘住宅				
文教住宅				
千歳住宅				

管理戸数1戸当たりの年間コスト(H29 年度実績)

(単位:円)



②市営駐車場（住吉町二輪車等駐車場）

市営駐車場の 施設配置 の基本的な考え方	市営駐車場は、大型公共施設や観光施設に隣接して適正に配置し、駐車需要を充足させることで、道路交通の円滑化及び安全で快適な都市環境の形成を図ります。 二輪車等駐車場は、市内中心部において不足しており、今後も同様な状況が継続するものと推測されることから、官民連携して整備を推進していきます。
----------------------------	---

ア 現状及び課題

住吉町二輪車等駐車場

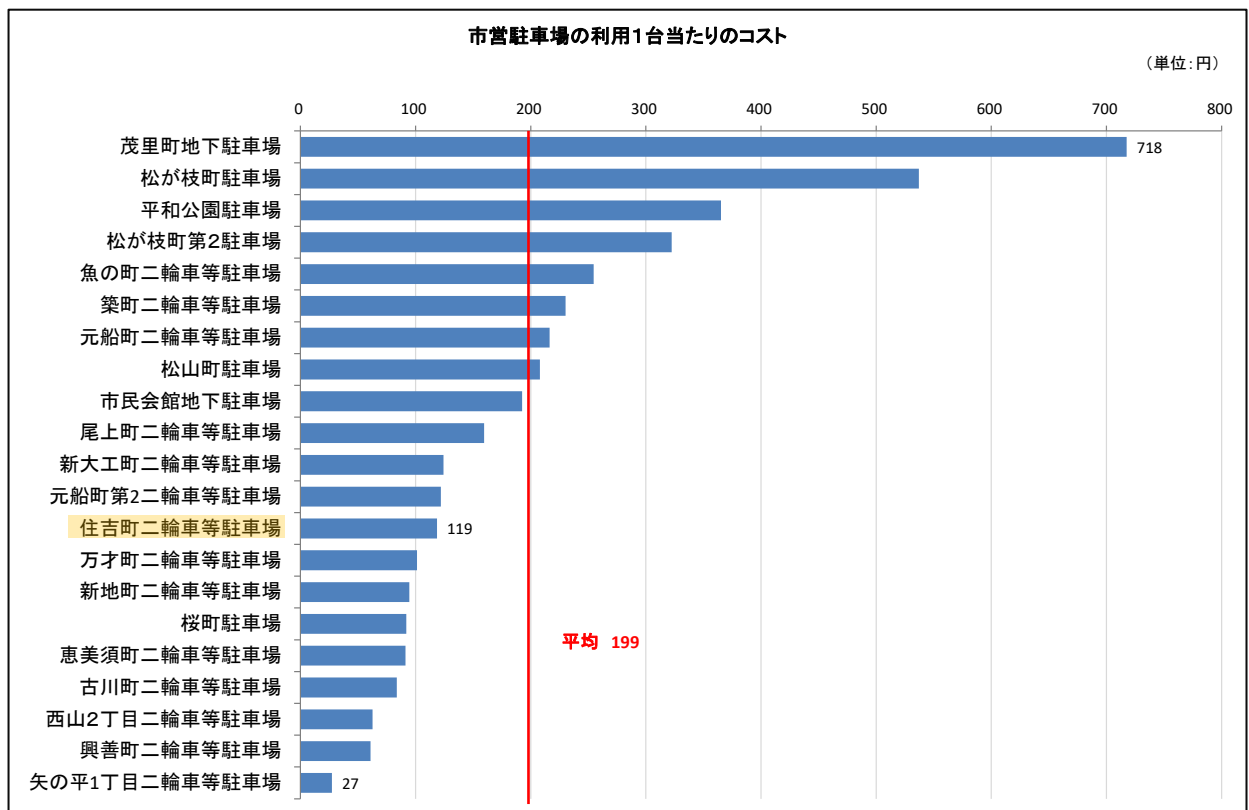
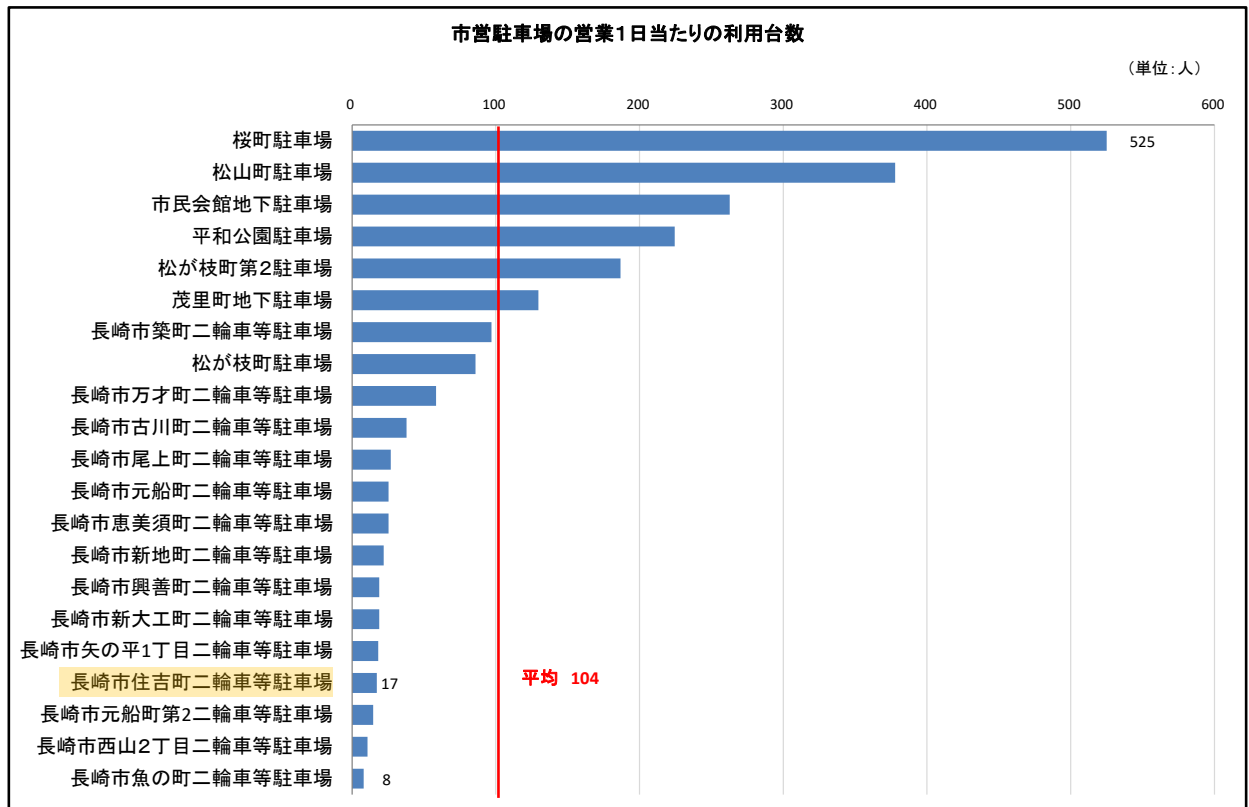
	【年間利用台数】 6,269 台 【1日当たりの利用台数】 17 台 ※利用台数は平成 29 年度実績 【概要】 ● 二輪車等の路上駐輪を防止し、道路交通の円滑化を図り、良好な生活環境を確保するために設置されています。
	【現状及び課題】 ● 商業施設が集積するエリアの中心にある駐車場として利用されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

住吉町二輪車等駐車場は、周辺道路における二輪車等の路上駐輪の防止、道路交通の円滑化、良好な生活環境の確保のため、今後も現在のサービスを維持し、施設を適正に管理します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
住吉町二輪車等駐車場				適正管理を行う



(3) 公用施設

①庁舎等（西浦上地域センター）

庁舎等の 施設配置の 基本的な考え方	人口減少や少子化・高齢化が進み、地域を支える力が弱まりつつあるなか、地域をより暮らしやすい場所とするためには、本来、地域が持つ力を引き出して、行政と地域コミュニティが連携しながら地域の課題を解決していくことが必要だと考えます。 また、市民にとって身近な行政サービスは、市内一円、身近な場所で均一に提供しつつも、非効率とならないようにします。 平成 29 年 10 月から、市の組織のあり方として、行政サテライト機能の再編成を行い、地域センター及び総合事務所を設置しました。 2040 年には、人口がさらに減少していくとともに、集約連携型の都市構造となることや、マイナンバー制度の進展やその他手続きの電子化や簡素化が見込まれるため、次のとおり配置を見直していきます。 (1) 身近な手続（各種証明書の交付、届け出や申請）や相談ができる機能 この機能については、都市計画マスタープランの生活地区、地域拠点及び都心部に 1 か所ずつ配置します。 生活地区では既存施設のなかで、当該地区内の人口のまとまりや交通の状況から、利便が良い場所に配置することとします。 また、現在、身近な手続きができるように配置している事務所及び地区事務所は、今後の人口及び取扱件数をもとに配置を見直していきます。 (2) 地域のまちづくりを支援する機能（地域からの相談、要望等への対応、各種団体のネットワーク化、情報発信） この機能については、都市計画マスタープランの生活地区、地域拠点及び都心部に 1 か所ずつ配置します。 地域の情報が集まり、また、地域で活動する団体と連携しやすい状態をつくるために、コミュニティ活動施設との複合化や、商業施設の中に配置するなど所管区域の住民が集まりやすい場所に配置することを検討しますが、地域の人口、地域コミュニティの状況、住民の交通の利便や移動の距離、職員配置の効率性などを考慮し、配置を見直していきます。 (3) 現場に出て事業等を実施する職員の拠点となる機能 この機能については、地域の課題を迅速に解決するために、人口や地域のまとまり、職員の移動に係る交通の利便や移動の距離、職員配置の効率性などを考慮し、中央・南部・北部・東部の既存の施設のなかで、市民生活に密着した土木事業や保健事業などの職員の移動の効率が良い場所 4 か所に配置します。
-----------------------------------	---

市全体にわたる計画の作成や事業の実施、事業者の営業に係る許認可などを行う本庁の機能は、市内全域の住民の利便を考慮し、都市計画マスタープランの都心部に1か所配置します。

ア 現状及び課題

西浦上地域センター



【建築年】1991年

【開庁時間】8:45～17:30

【閉庁日】土・日曜日、祝日、年末年始

【概要】

- 身近な手続きや相談ができる拠点として、市税収納、各種証明書の発行、福祉手続きなどのほか、まちづくり活動の支援を行っています。
- 北公民館、チトセピアホールとともに複合商業施設(チトセピア)内に設置されています。

【現状及び課題】

- 平日の昼間は忙しいという方のために、土曜日や日曜日でも、住民票の写し、戸籍、所得・課税などの証明書が取れる「市民サービスコーナー」が設置されています。
- 市民対話では、
「チトセピアに北公民館等があるという場所の良さを活用して、もっと利用の仕方を工夫できないか。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

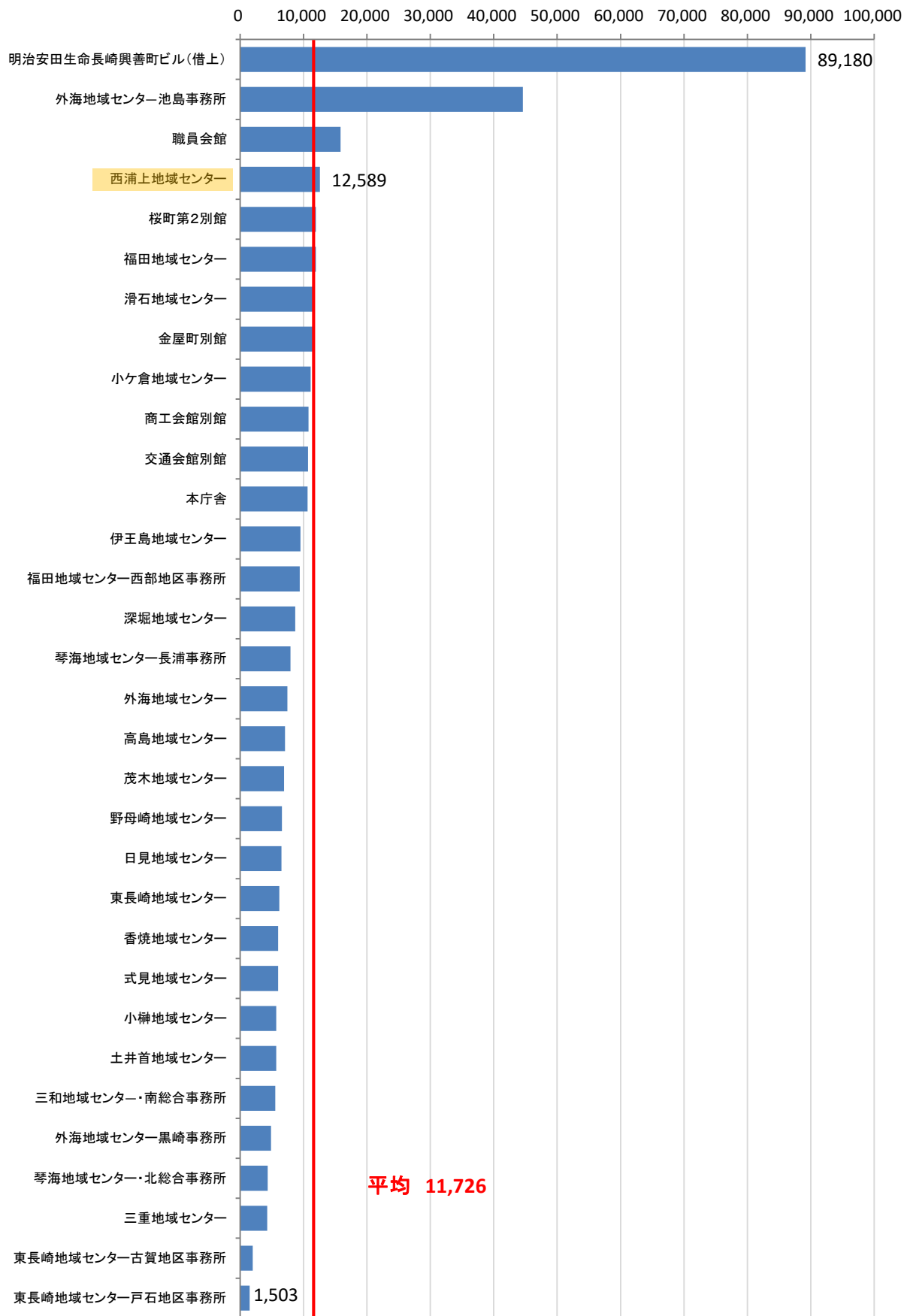
身近な手続きや相談ができ、地域のまちづくりを支援する機能は、引き続き必要と考えています。西浦上地域センターについては、現在の施設を適正に管理します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
西浦上地域センター				適正管理を行う

本庁舎・地域センター等の床面積1㎡当たりの年間コスト (H29 年度実績)

(単位:円)



②その他事務所（北部現場事務所）

その他事務所の 施設配置の 基本的な考え方	施設の特殊性や、サービスの機動性確保のため、分散して設置していますが、より効率的な行政運営を図るために必要な施設配置へ見直します。 また、余剰スペースが生じている施設や、施設の集約化が可能な施設があることから、施設の複合化や統廃合を行うことにより、全体の施設規模の縮小を図ります。
-----------------------------	--

ア 現状及び課題

北部現場事務所	
	【建築年】1993 年 【概要】 ● この施設は当初、「北部清掃センター」として、ごみ収集業務を行うために建てられました。 ● 現在、土木現場作業員の詰所、及び現場作業で使用する車両、機材等の保管場所として利用されています。
【現状及び課題】 ● 市が管理している道路・河川の維持補修やパトロールを行うための拠点として使われています。	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

北部現場事務所については、市が管理している道路・河川の維持補修やパトロールを行うための拠点として必要であることから、当面は現在の施設を引き続き適正に管理していきます。

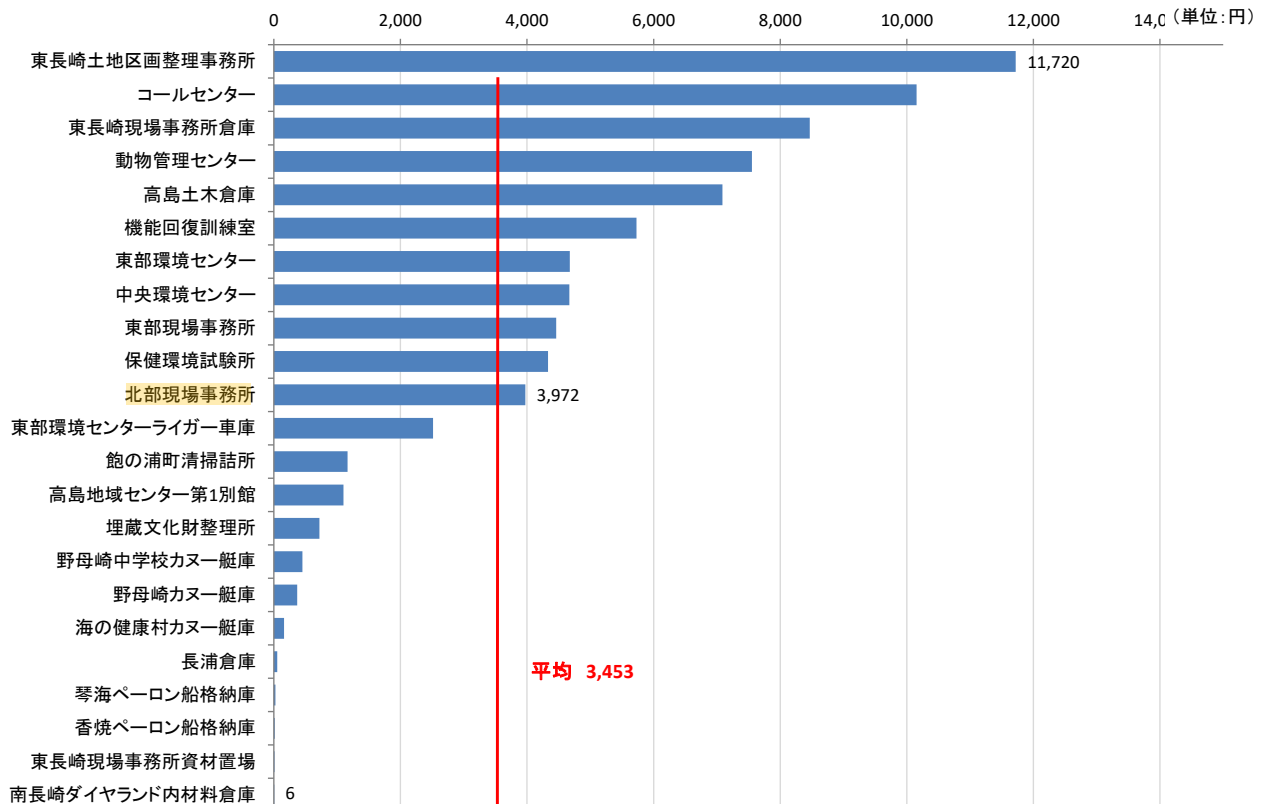
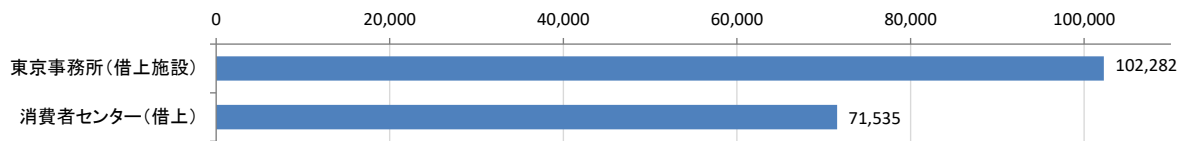
なお、施設のあり方については、今後の現場作業員の配置の状況をみながら、継続的に検討を行っています。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
北部現場事務所				現在の施設を適正に管理し、施設のあり方については継続的に検討する

その他事務所の床面積1㎡当たりの年間コスト (H29 年度実績)

(単位:円)



(4) 公園施設

①公園施設（近隣公園、街区公園）

公園施設の 施設配置の 基本的な考え方

公園については、防災・避難等災害に対応できる機能を確保し、バリアフリー化など機能の向上や、複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出、地域イベント等の開催が可能な広場等の整備による地域コミュニティの空間の創出、スポーツ施設等の利用環境の充実、健康寿命を延ばす健康づくりのための機能の導入等、多様なニーズに対応した公園づくりを推進します。

また、市内における都市公園の市民1人当たりの標準の敷地面積及び、市街地の都市公園の当該市街地の市民1人当たりの標準の敷地面積はそれぞれ次のとおりとし、都市公園の種類や目的及び誘致距離を勘案し配置の均衡を図ります。

（1人あたりの敷地面積）

- ・本市内の都市公園の市民1人当たりの敷地面積の標準 10 m²以上
- ・市街地の都市公園の当該市街地の市民1人当たりの敷地面積の標準 5 m²以上

（公園種別と標準面積）

公園種別	標準面積
街区公園	0.1ha（1,000 m ² ）
近隣公園	2.0ha（20,000 m ² ）
地区公園	4.0ha（40,000 m ² ）
総合公園	利用目的に応じて適宜
運動公園	利用目的に応じて適宜

（1）総合公園

都市基幹公園として、都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供するため必要な施設です。また、地区公園の配置を補完する役割も有しています。

（2）運動公園

都市基幹公園として、都市住民全般の主として運動の用に供するため必要な施設です。スポーツに特化したサービスの拠点として必要です。

（3）地区公園

住区基幹公園として、主として徒歩圏内に居住する者の利用に供するため必要な施設です。住民のレクリエーション等の拠点として配置します。

（4）近隣公園

住区基幹公園として、主として近隣に居住する者の利用に供するため必要な施設です。日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点として配置します。

（5）街区公園（遊園を含む）

住区基幹公園として、主として街区内に居住する者の利用に供するため必要な施設です。

将来人口の推移及び立地適正化計画における居住誘導区域を踏まえながら、整備面積・配置・機能が過大である地域においては廃止し、不足している地域においては、統廃合や新設により適切な公園整備を推進します。

ア 現状及び課題

女の都運動公園、泉町公園【近隣公園】

近隣に居住する住民の日常における憩いの場や避難場所等、防災の拠点として利用されています。

【街区公園（49 か所）】

街区内に居住する住民の方に利用されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

西浦上・三川地区の公園は、配置や面積の状況等から、ほぼ充足していますので、基本的には現状を維持することとし、公園再整備の際は、社会状況の変化を踏まえながら公園ごとの施設のあり方や機能分担、統廃合等の検討を行い、公園利用者のニーズに合った整備を進めていきます。

- 女の都運動公園、泉町公園については、近隣に居住する住民の日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点として、現状の施設を維持します。
- 街区公園については、将来人口の推移を踏まえながら、統廃合や新設により適切な公園整備を推進します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
女の都運動公園				適正管理を行う
泉町公園				適正管理を行う
街区公園（49 か所）				整備面積・配置・機能の状況を見ながら、統廃合や新設を行う

6 地区計画のロードマップ（再掲）

地区別計画を着実に実施していくため、施設ごとの将来のあり方について、今後の再配置の推進工程（ロードマップ）を示したものです。

再配置の実施時期については、建物の状況（建築年、安全性など）や施設の稼働率、提供している行政サービス、さらには施設が設置された経緯や市の施策との整合性などを考慮し、区分します。

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
三原住宅				縮小建替えを行う
老人福祉センターすみれ荘				高齢者専用施設としての使い方を見直し、施設のあり方を検討する
西浦上小学校				建替えを行う
川平小学校				学校規模の適正化と適正配置の協議を行う
女の都小学校				学校規模の適正化と適正配置の協議を行う
川平住宅 女の都住宅 西山台住宅 花丘住宅 文教住宅 千歳住宅				適正管理を行う 大規模な改修や建替えが必要となるタイミングで、人口などの状況を踏まえ、規模の検討を行う
北部現場事務所				現在の施設を適正に管理し、施設のあり方については継続的に検討する
街区公園（49 か所）				整備面積・配置・機能の状況を見ながら、統廃合や新設を行う
北公民館 三川地区ふれあいセンター				適正管理を行う
チトセピアホール				適正管理を行う
西浦上中学校				現施設を適正管理し、計画的に改修、建替えを行う
三原小学校 西山台小学校 三川中学校 長崎商業高等学校				適正管理を行う
ひばりクラブ 学童保育ひばり：ひばりキッズ／ひばりクラブ みはらクラブ ピノキオクラブ たんぽぽクラブ				適正管理を行うとともに、学校の適正配置に併せ、事業者にクラブの統合を働きかけていく 校舎の建替えがなされる場合は、機能を確認するための手法を検討する

西浦上地区子育て支援 センター「びよびよ」				適正管理を行う
大手保育所				区域内の保育施設の今後の 利用状況を見ながら、 将来的には廃止する
住吉町二輪車等駐車場				適正管理を行う
西浦上地域センター				適正管理を行う
女の都公園 泉町公園				適正管理を行う

参考 市民対話の実施

人口が減少し少子高齢化が進んでも、長崎が暮らしやすいまちであり続けられるよう、公共施設のあり方・使い方について、地域住民と行政と一緒に考える場として、「市民対話」を実施しました。

将来の長崎市の姿を見据えた行政サービスのあり方と、それを提供する拠点となる公共施設のあり方について、市の基本的な考え方をお話しするとともに、地域に必要な機能（行政サービス）をこれからも維持しながら、地域の賑わいや活力あるまちづくりにつながる施設の集約化、多世代交流の促進を生み出す複合化・多機能化など、公共施設の見直しについてさまざまな意見をいただきました。

西浦上・三川地区での市民対話の開催状況は、以下のとおりです。

<第1回>

- (1) 開催日 平成30年6月23日（土）
- (2) 会場 長崎大学工学部
- (3) 内容
 - 公共施設の現状や見直しの必要性について
 - 地区の見直した方がよいと思う施設を考える
- (4) 参加者数 24人

<第2回>

- (1) 開催日 平成30年7月21日（土）
- (2) 会場 長崎大学工学部
- (3) 内容
 - 公共施設の配置の考え方と見直し案について
 - 見直し案に対する意見交換
- (4) 参加者数 23人

<第3回>

- (1) 開催日 平成30年8月25日（土）
- (2) 会場 長崎大学環境科学部
- (3) 内容
 - 対話全体の取りまとめ
 - 意見交換
- (4) 参加者数 17人

◆地区の市民対話の詳細については、長崎市のホームページでご覧いただけます。

「西浦上・三川地区の公共施設の将来のあり方を考える市民対話」

(URL: <https://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/792000/792109/p031782.html>)

長崎市公共施設マネジメント
西浦上・三川地区計画

令和3年(2021 年)5月
令和6年(2024 年)6月改訂
長崎市

【問い合わせ先】

長崎市財務部資産経営課

電話:095-829-1127

FAX:095-829-1248

Email:shisankeiei@city.nagasaki.lg.jp